

京都府京田辺市

市内遺跡発掘調査報告書

-平成30年度～令和3年度の試掘調査-

2023

京 田 辺 市

市内遺跡発掘調査報告書

－平成30年度～令和3年度の試掘調査－

京 田 辺 市

序

京田辺市は、京都・大阪・奈良の中間に位置する、優れた交通利便性と豊かな自然に恵まれたまちです。古くから交通の要衝として発展し、市内には多彩な文化財が所在しています。

本市では立地や環境を生かした魅力あるまちづくりを進めており、近年は大規模な開発事業が相次いでいます。こうした開発から貴重な文化財を守るため、本市では、開発予定地を対象とした埋蔵文化財の発掘調査を実施しています。本書は、平成30年度から令和3年度にかけて実施した市内遺跡試掘調査の成果をまとめたものです。

発掘調査及び報告書の刊行にあたっては、事業者や地権者、関係機関の方々に多大なるご支援、ご協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。

今後とも、文化財の保護と普及にご理解、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和5年3月

京田辺市長 上村 崇

例　言

- 1 本書は、平成30年度～令和3年度に京田辺市教育委員会及び京田辺市が実施した試掘調査の報告書である。

- 2 本書に収めた調査対象遺跡、調査担当者は下表のとおりである。

	遺跡名	調査年度	所在地	調査主体	調査担当者	調査期間
1	門田遺跡	平成30年度	京田辺市 大住門田	京田辺市教育委員会	綾部美輪	平成31年1月15日～ 平成31年2月18日
		令和2年度		京田辺市	綾部美輪	令和2年11月24日～ 令和2年11月30日
2	興戸遺跡	令和元年度	京田辺市 興戸小毛詰	京田辺市教育委員会	綾部美輪	令和元年11月26日～ 令和2年2月5日
3	稲葉遺跡	令和2年度	京田辺市田辺 池ノ屋・石塚・ 柿ノ内・草屋 ほか地内	京田辺市	綾部美輪	令和2年12月1日～ 令和3年1月15日
		令和3年度			吉兼千陽	令和4年1月31日～ 令和4年2月21日
4	杉谷遺跡	令和2年度	京田辺市 大住池平	京田辺市	吉兼千陽 上野あさひ	令和3年3月25日

- 3 調査は、国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金及び埋蔵文化財緊急発掘調査補助金の交付を受け実施した。
- 4 本書の執筆及び編集は、京田辺市市民部文化・スポーツ振興課が行った。
- 5 門田遺跡試掘調査では大住土地区画整理組合設立準備委員会（現・京田辺市大住土地区画整理組合）に、稲葉遺跡試掘調査では地権者の方々に、杉谷遺跡試掘調査では京田辺市立大住小学校に多大なるご協力とご支援を賜った。ここに記して感謝の意を表します。
- 6 本書に掲載した地図は、京田辺市基本地形図である。周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲は京都府・市町村共同ポータルサイト（<http://g-kyoto.gis.prefkyoto.lg.jp/g-kyoto/top/index.asp>）に掲載する文化財G I Sデータを基に作成した。
- 7 本書で使用した方位記号は、座標北を表す。
- 8 調査で出土した遺物及び作成した記録類は、京田辺市で保管する。
- 9 門田遺跡及び令和2年度稲葉遺跡試掘調査の写真は、発掘技術員が撮影した。興戸遺跡試掘調査の写真は、調査担当者及び京田辺市文化財保護委員会（当時）委員の林正氏が撮影した。その他の写真は、すべて調査担当者が撮影した。
- 10 出土遺物の整理作業及び写真撮影は、門田遺跡・興戸遺跡出土分を株式会社地域文化財研究所に委託し、稲葉遺跡出土分は本市職員が行った。
- 11 発掘調査及び報告書の作成にあたり、下記の機関、個人に多大なる協力を得た。記してお礼申し上げます（五十音順、敬称略）。
- 伊野近富、京都府教育庁指導部文化財保護課、國下多美樹、社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会山城就労支援事業所「さんさん山城」

目 次

第1章 京田辺市の位置と環境	1
第2章 門田遺跡	5
第3章 興戸遺跡	19
第4章 稲葉遺跡	30
第5章 杉谷遺跡	45

挿図目次

第1図 京田辺市の位置	1
第2図 周辺遺跡分布図	2
第3図 門田遺跡調査区配置図	6
第4図 門田遺跡 H30-1tr 平面・断面図	7
第5図 門田遺跡 H30-2tr 平面・断面図	7
第6図 門田遺跡 H30-3tr 平面・断面図	8
第7図 門田遺跡 H30-4tr 平面・断面図	8
第8図 門田遺跡 H30-5tr 平面・断面図	9
第9図 門田遺跡 H30-6tr 平面・断面図	10
第10図 門田遺跡 H30-7tr 平面・断面図	11
第11図 門田遺跡 H30-8tr 平面・断面図	11
第12図 門田遺跡 H30-9tr 平面・断面図	12
第13図 門田遺跡 平成30年度試掘調査出土 土遺物	14
第14図 門田遺跡 R2-2-ltr 平面・断面図	15
第15図 門田遺跡 R2-2-2tr 平面・断面図	15
第16図 門田遺跡 R2-2-3tr 平面・断面図	16
第17図 門田遺跡 R2-2-4tr 平面・断面図	16
第18図 門田遺跡 R2-2-5tr 平面・断面図	17
第19図 門田遺跡 令和2年度試掘調査出土 遺物	17
第20図 興戸遺跡調査区配置図	20
第21図 興戸遺跡 第1調査区平面・断面図	21
第22図 興戸遺跡 第2調査区平面・断面図	22
第23図 興戸遺跡 第3調査区南壁・東壁 面図	23
第24図 興戸遺跡 第3調査区第1面平面図	24
第25図 興戸遺跡 第3調査区第1面遺構断 面図	25
第26図 興戸遺跡 第3調査区第2面平面図	26
第27図 興戸遺跡 第3調査区第2面遺構断 面図	27
第28図 興戸遺跡 第4調査区平面・断面図	28
第29図 興戸遺跡出土遺物	29
第30図 稲葉遺跡調査区配置図	31
第31図 稲葉遺跡 R2-1tr 平面・断面図	32
第32図 稲葉遺跡 R2-2tr 平面・断面図	32
第33図 稲葉遺跡 R2-3tr 平面・断面図	33
第34図 稲葉遺跡 R2-4tr 平面・断面図	33
第35図 稲葉遺跡 R2-5tr 平面・断面図	34
第36図 稲葉遺跡 R2-6tr 平面・断面図	34
第37図 稲葉遺跡 R2-7tr 平面・断面図	35
第38図 稲葉遺跡 R2-8tr 平面・断面図	35
第39図 稲葉遺跡 R2-9tr 平面・断面図	36
第40図 稲葉遺跡 R2-10tr 平面・断面図	36
第41図 稲葉遺跡 R2-11tr 平面・断面図	37
第42図 稲葉遺跡 R2-12tr 平面・断面図	37
第43図 稲葉遺跡 R2-13tr 平面・断面図	38
第44図 稲葉遺跡 R2-14tr 平面・断面図	38
第45図 稲葉遺跡 令和2年度試掘調査出土 遺物	39
第46図 稲葉遺跡 R3-1tr 平面・断面図	40

第 47 図	稲葉遺跡 R3-2tr 平面・断面図	40	第 52 図	稲葉遺跡 令和 3 年度試掘調査出土 遺物	44
第 48 図	稲葉遺跡 R3-3tr 平面・断面図	41	第 53 図	杉谷遺跡調査区配置図	45
第 49 図	稲葉遺跡 R3-4tr 平面・断面図	41	第 54 図	杉谷遺跡 第 1 調査区平面・断面図	46
第 50 図	稲葉遺跡 R3-5tr 平面・断面図	42	第 55 図	杉谷遺跡 第 2 調査区平面・断面図	46
第 51 図	稲葉遺跡 R3-6tr 平面・断面図	43			

付表目次

付表 1	門田遺跡出土遺物一覧	18	付表 3	稲葉遺跡出土遺物一覧	44
付表 2	興戸遺跡出土遺物一覧	29			

図版目次

図版第 1	(1) 門田遺跡 H30-1tr 第 4 層上面検出状況	(2) 興戸遺跡 出土遺物
	(2) 門田遺跡 H30-4tr 第 4 層上面検出状況	(1) 稲葉遺跡 R2-1tr 全景
	(3) 門田遺跡 H30-5tr 扯張区 第 3 層上面全景	(2) 稲葉遺跡 R2-2tr 全景
図版第 2	(1) 門田遺跡 H30-6tr SK05 完掘状況	(3) 稲葉遺跡 R2-5tr 耕作溝完掘状況
	(2) 門田遺跡 H30-7tr 全景	図版第 7 (1) 稲葉遺跡 R2-6tr 全景
	(3) 門田遺跡 H30-9tr 第 5 層上面完掘状況	(2) 稲葉遺跡 R2-7tr 全景
図版第 3	(1) 門田遺跡 R2-2-2tr SD01 検出状況	(3) 稲葉遺跡 R2-8tr 全景
	(2) 門田遺跡 R2-2-4tr 全景	図版第 8 (1) 稲葉遺跡 R2-9tr 全景
	(3) 門田遺跡 平成 30 年度試掘調査・令和 2 年度第 2 次試掘調査 出土遺物	(2) 稲葉遺跡 R2-13tr 耕作溝完掘状況
図版第 4	(1) 興戸遺跡 第 1 調査区 全景	(3) 稲葉遺跡 R2-14tr 全景
	(2) 興戸遺跡 第 3 調査区 第 1 面完掘状況	図版第 9 (1) 稲葉遺跡 R3-1tr 全景
	(3) 興戸遺跡 第 3 調査区 第 2 面完掘状況	(2) 稲葉遺跡 R3-4tr 全景
図版第 5	(1) 興戸遺跡 第 4 調査区 全景	(3) 稲葉遺跡 R3-5tr 全景
		図版第 10 (1) 稲葉遺跡 R3-6tr 第 5 層上面完掘状況
		(2) 稲葉遺跡 R3-6tr 全景
		(3) 稲葉遺跡 令和 2 年度・令和 3 年度試掘調査 出土遺物

第1章 京田辺市の位置と環境

1. 地理的環境

京田辺市は、京都府南部の南山城地域の北西部、木津川左岸に位置する。北は八幡市、南は精華町、木津川を挟んで東は城陽市及び井手町、西は生駒山系に連なる田辺丘陵を挟んで大阪府枚方市及び奈良県生駒市と境界を接している。市の東部には木津川が流れ、木津川によって形成された沖積平野が広がり、西部には田辺丘陵とそこから流れ出る木津川支流によって形成された扇状地が広がる。支流としては手原川、馬坂川、防賀川などが挙げられるが、これらの河川はいずれも天井川となり、河川の下を道路や線路が通るという、木津川岸に特徴的な景観を生み出している。

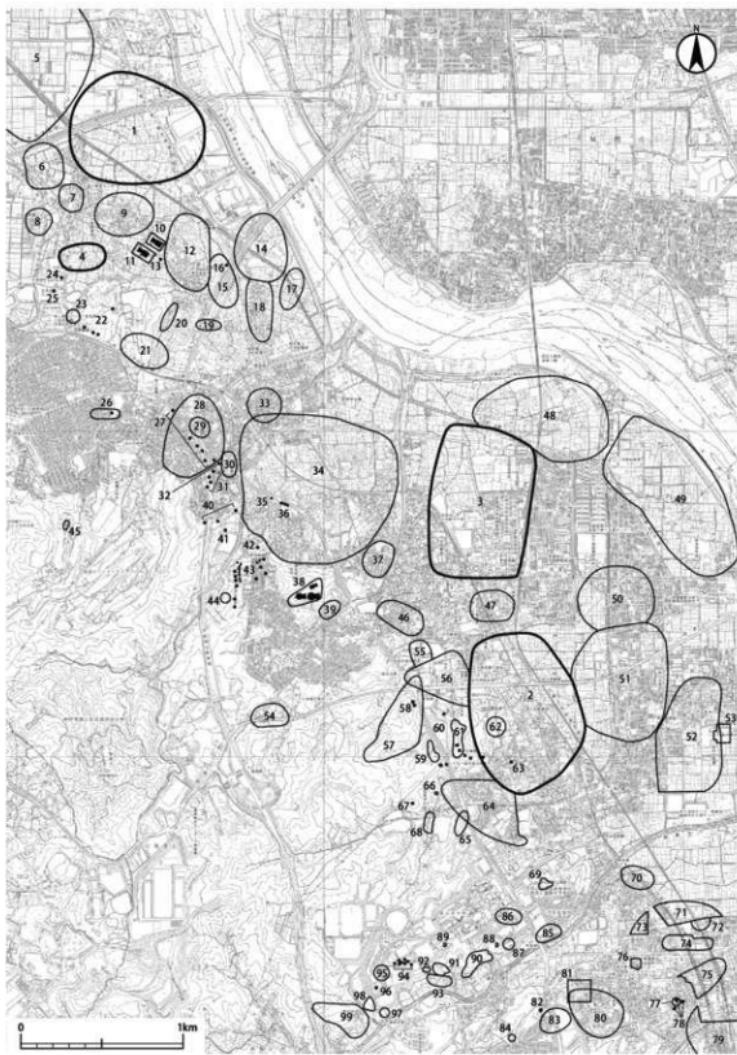


第1図 京田辺市の位置

2. 歴史的環境

市内に縄文時代以前の遺跡は少ない。旧石器時代の遺跡としては、市南部の山間部に所在する高ヶ峯遺跡が知られており、サヌカイト製石核が採集されている。縄文時代の遺跡としては、後期の集落遺跡である薪遺跡（34）で柱穴や土坑などが検出されている。また、市中部の興戸遺跡（2）や南部の三山木遺跡（75）からは、晩期の土器が出土している。三山木遺跡に近接する山崎遺跡（77）からは、石棒や異形石製品が出土している。

弥生時代以降、遺構や遺物の出土例は多くなる。周辺の代表的な遺跡として、八幡市に位置する内里八丁遺跡が挙げられる。弥生時代から鎌倉時代の遺構・遺物が出土しており、弥生時代の遺構としては、後期の竪穴建物や水田遺構が見つかっている。市内の弥生時代の遺跡としては、前期では土坑



第2図(1) 周辺遺跡分布図 (S=1/30,000)

1. 門田遺跡	2. 興戸遺跡	3. 楠葉遺跡	4. 杉谷遺跡	5. 魚田遺跡
6. 西村遺跡	7. 八河原遺跡	8. 西野遺跡	9. 東林遺跡	10. 大住車塚古墳
11. 大住南塚古墳	12. 岡村遺跡	13. 郷塚古墳	14. 三木本遺跡	15. 久保田遺跡
16. 立居地蔵古墳	17. 志保遺跡	18. 三野遺跡	19. 野上遺跡	20. 岩ノ脇遺跡
21. 地内山遺跡	22. 城山古墳群	23. 城山遺跡	24. 月談神社古墳	25. 内山古墳
26. 貴谷古墳群	27. 郷土塚古墳群	28. 猿谷遺跡	29. 小林遺跡	30. 煙山遺跡
31. 煙山古墳群	32. 大穴1号墳	33. 新城跡	34. 薩遺跡	35. 新狭道1号墳
36. 薩高木古墳群	37. 棚倉係神社遺跡	38. 天理山古墳群	39. 小穴古墳群	40. 西山古墳群
41. 牛ノ宮古墳	42. 梶原山古墳	43. 堀切古墳群	44. 西薪遺跡	45. 貴谷遺跡
46. 尼ヶ池遺跡	47. 河原遺跡	48. 伝道林遺跡	49. 東神屋遺跡	50. 鍵田遺跡
51. 大切遺跡	52. 南塚内遺跡	53. 草路城跡	54. マケ谷遺跡	55. 竹ノ堀遺跡
56. 田辺遺跡	57. 田辺城跡	58. 田辺奥ノ城古墳群	59. 興戸丘陵西遺跡	60. 興戸古墳群
61. 興戸丘陵東遺跡	62. 興戸魔寺	63. 部塚古墳	64. 興戸宮ノ前遺跡	65. 興戸城跡
66. 興戸宮ノ前窓跡	67. 飯塚古墳	68. 川原谷遺跡	69. 田辺天神山遺跡	70. 野神遺跡
71. 田中東遺跡	72. 東角田遺跡	73. 田中西遺跡	74. 二又遺跡	75. 三山木遺跡
76. 上谷浦遺跡	77. 山崎遺跡	78. 山崎古墳群	79. 宮ノ下遺跡	80. 南山遺跡
81. 南山城跡	82. 口胸ケ谷古墳	83. 口胸ケ谷遺跡	84. 多々羅遺跡	85. 七瀬川遺跡
86. 都谷北遺跡	87. 都谷遺跡	88. 新宗谷窓跡	89. マムシ谷窓跡	90. 新宗谷窓跡
91. 新宮前館跡	92. 新宮前遺跡	93. 新宮社東遺跡	94. 下司古墳群	95. 下司館跡
96. 大御堂裏山古墳	97. 開音寺東遺跡	98. 開音寺東遺跡	99. 普賢寺跡	

第2図（2）周辺遺跡分布図

などが見つかった南部の宮ノ下遺跡（79）。前期の遺物包含層が検出された三山木遺跡が挙げられる。三山木遺跡では、石器や碧玉製管玉の生産が行われていたことが確認されている。中期では、興戸遺跡の西側の丘陵上に位置する中世の田辺城跡（57）の下層から堅穴建物や方形周溝墓が見つかっているほか、南垣内遺跡（52）でも方形周溝墓が検出されている。後期では、集落遺跡として飯岡遺跡や田辺天神山遺跡（69）が挙げられる。中期の田辺城跡下層を含めて、これらの集落は高地性集落であると考えられる。また、興戸遺跡西側の丘陵上には、方形台状墓（興戸5号墳）が築かれている。

古墳時代前期には、市北部の大住地区に、大住車塚古墳（墳長66m）（10）・大住南塚古墳（墳長71m）（11）が築造された。いずれも前方後方墳であり、2基の前方後方墳が並ぶ例は全国でも珍しいとされる。市内中部では興戸古墳群（60）も前期の古墳群として知られる。なかでも1号墳（前方後円墳、墳長24m）と2号墳（円墳、直径28m）は首長墓として位置づけられている。2号墳は小規模な円墳だが、内行花紋鏡や、管玉・鍔形石・車輪石・石剣などの石製品、鉄劍など、豊富な副葬品が出土している。また、興戸古墳群の丘陵上に築かれた天理山古墳群（38）は、令和3年度に実施した調査により、前方後円墳2基、前方後方墳1基からなる前期の古墳群であることが明らかになっている。南部の飯岡丘陵には、市内最大の前方後円墳である飯岡車塚古墳（墳長87m）が位置している。古墳時代中期には、飯岡丘陵にゴロゴロ山古墳（円墳、直径60m）、薬師山古墳（円墳、直径38m）、トヅカ古墳（円墳、直径25m）が築造され、同一の丘陵に継続して古墳が造られている。古墳時代後期の遺跡としては、市内中部の薪地区に位置し、10基の円墳と10基の横穴墓で構成される堀切古墳群（43）が代表的である。また、後期末から飛鳥時代にかけて、市内北部から八幡市にかけての丘陵部に狐谷、美濃山、女谷・荒坂、松井の各横穴群が築かれた。約1.5kmの範囲内に合計600～700基の横穴群の存在が想定される大規模な横穴群であり、この地域に特徴的な墓制といえる。

同時期の集落としては、門田遺跡（1）で51棟の堅穴建物が検出されているほか、京田辺市松井の北側に広がる新田遺跡では、飛鳥時代から奈良時代にかけての集落跡が確認されている。

飛鳥時代の遺跡としては、普賢寺（現在の大御堂観音寺）が7世紀末頃に創建されたと考えられている。普賢寺跡（99）では、飛鳥時代後期から中世にかけての瓦が採集されている。また、創建年代は不明だが、興戸遺跡内に位置する興戸廃寺（62）でも、飛鳥時代後期から平安時代の瓦が採集されている。普賢寺の付近には、飛鳥時代末の須恵器窯である新宗谷窯跡（88）が位置する。

奈良時代には、平城京から全國へ伸びる官道が整備され、京田辺市域には山陰・山陽道が設置された。現在の府道22号八幡木津線がこれをほぼ踏襲すると考えられている。興戸遺跡内では、この古山陰・山陽道に沿って西へ約30°振れる溝や掘立柱建物が検出されている。遺物では、井戸から墨書き土器や土馬などが、包含層からは二彩陶器も出土しており、官衙的性格がうかがえる。また、門田遺跡でも奈良時代の掘立柱建物が検出されている。

平安時代の遺跡としては、興戸遺跡で掘立柱建物や井戸などが検出され、綠釉陶器や灰釉陶器が多く出土している。また、市南部の三山木遺跡でも掘立柱建物や井戸が見つかっている。三山木遺跡付近には奈良時代に山陰・山陽道の山本駅が置かれたと考えられており、これらの遺構はその機能を引き継いだ施設のものである可能性が考えられる。

中世の遺跡としては、薪遺跡で在地領主の居館跡や闇池の遺構が検出されている。遺物は13世紀後半から14世紀前半を中心とし、多量の土師器皿とともに白磁四耳壺、青磁盤等の優品が出土している。中世後半から近世にかけては、付近に田辺城や興戸城（65）が築かれ、田辺城跡では15世紀から16世紀にかけての堀切や石組遺構が検出されている。また、普賢寺川沿いには草路城（53）、南山城（81）、都谷館（87）、新宗谷館（90）など複数の城館が築かれた。

第2章 門田遺跡

1. 調査に至る経緯

門田遺跡は、京田辺市北部の大住地区に位置する、弥生時代から中世にかかる集落遺跡である。遺跡内及び周辺には大住工業専用地域が位置し、多数の工場が建ち並ぶ一方で、農地も多く残る。

地元では、農業者の高齢化や後継者不足に伴って農地の市街化を求める声があがっており、平成22年（2010）には大住地区画整理組合設立準備委員会が結成されるなど、まちづくりについて議論が重ねられてきた。令和3年（2021）には京田辺市大住地区画整理組合が設立され、現在、約13haの農地を対象とした地区画整理事業が進められている。

事業対象地の大半が門田遺跡に含まれることから、本市では、まず、平成30年度に試掘調査を実施した。その際に遺構が確認されたことから、令和2年度にも追加の試掘調査を実施した（令和2年度第2次試掘調査）。なお、令和2年度の試掘調査については、一部を大住地区画整理組合設立準備委員会（当時）の負担で実施しており（令和2年度第1次試掘調査）、その報告は『門田遺跡第6次発掘調査報告書』（京田辺市2023）に掲載している。

門田遺跡では今回の調査以前に5次にわたる本調査が行われているが、北側の工業地域で平成16年に実施された第2次調査では、飛鳥時代の竪穴建物が47棟検出された。また、新名神高速道路の建設に伴い平成23年～同26年に実施された第3次～第5次調査では、古墳時代後期～飛鳥時代の竪穴建物や、平安時代後半から中世前半にかけての掘立柱建物や井戸が検出されている。

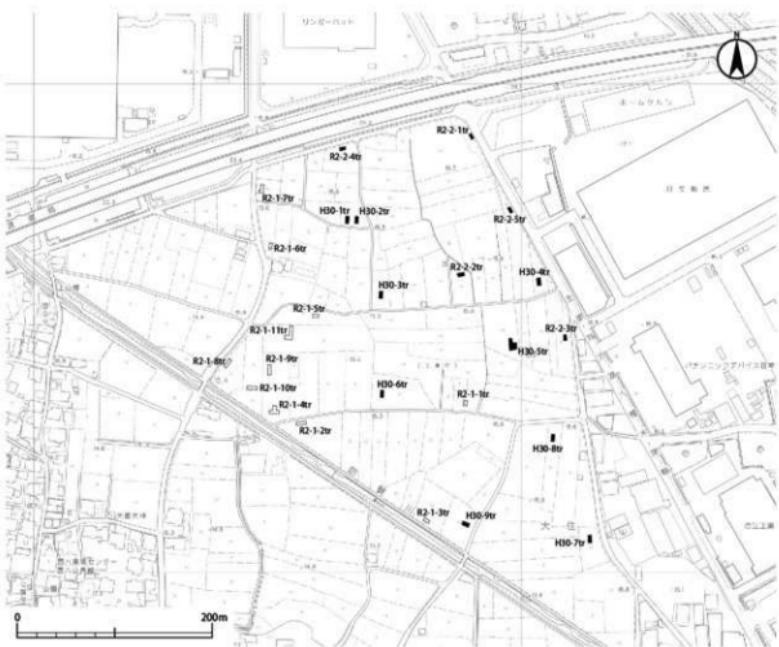
《調査体制》

平成30年度

調査主体	京田辺市教育委員会
調査責任者	京田辺市教育委員会 教育長 山口恭一
調査指導	京都府教育委員会・京田辺市文化財保護委員会
調査担当者	京田辺市教育委員会 教育総務室 文化振興室 綾部美輪
発掘技術員	東海アーナス株式会社 喜多貞裕
発掘作業委託	東海アーナス株式会社

令和2年度（第2次）

調査主体	京田辺市
調査責任者	京田辺市長 上村 崇
調査指導	京都府教育委員会・京田辺市文化財保護審議会
調査担当者	京田辺市民部文化・スポーツ振興課 綾部美輪
発掘作業委託	有限会社京都平安文化財



第3図 門田遺跡調査区配置図 (S=1/5,000) ※黒塗りが本書で報告する調査区

2. 平成30年度の調査

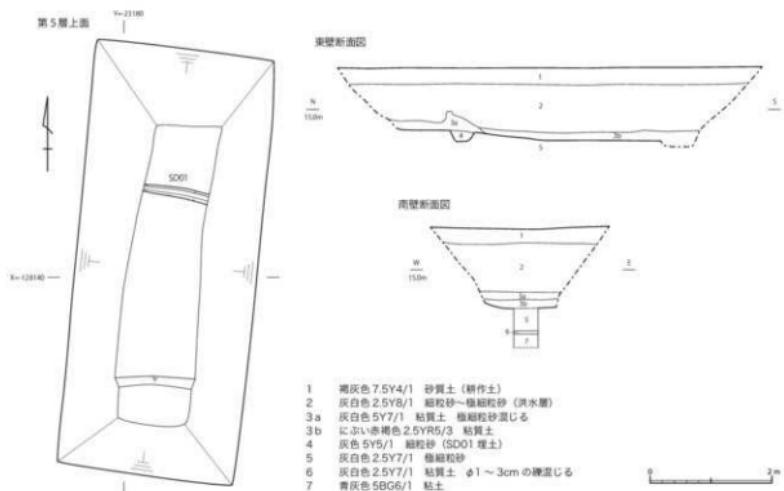
(1) 調査の経過

調査は平成31年1月15日に第7、8調査区より開始した。その後、第9、第2、第5、第3、第4、第1、第6調査区の順に調査を行い、2月18日に終了した。調査区は、概ね南北7m×東西3mの規模で、9か所に設定した。

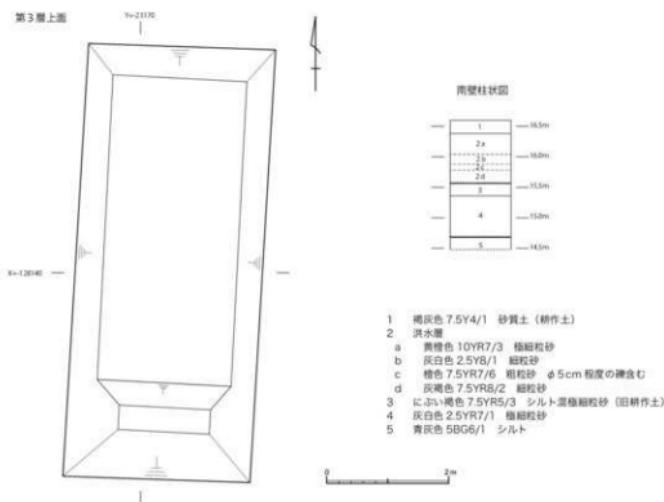
(2) 調査の成果

第1調査区 (H30-1tr) 第5層上面で、溝SD01を検出した。埋土からは土師器の小片が1点出土したが、年代は不明である。第5層以下は湧水が激しく、記録は柱状図の作成にとどめた。遺物は、第2層から瓦器椀が出正在している（第13図-1）。

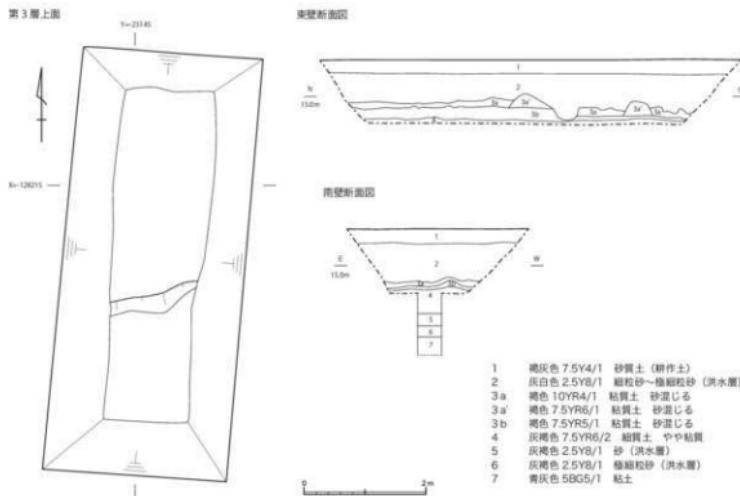
第2調査区 (H30-2tr) 第1調査区の東に設定した調査区。湧水が激しく、壁断面は柱状図の作成にとどめざるを得なかった。遺構は検出されなかった。第2層から染付片が1点出土している。



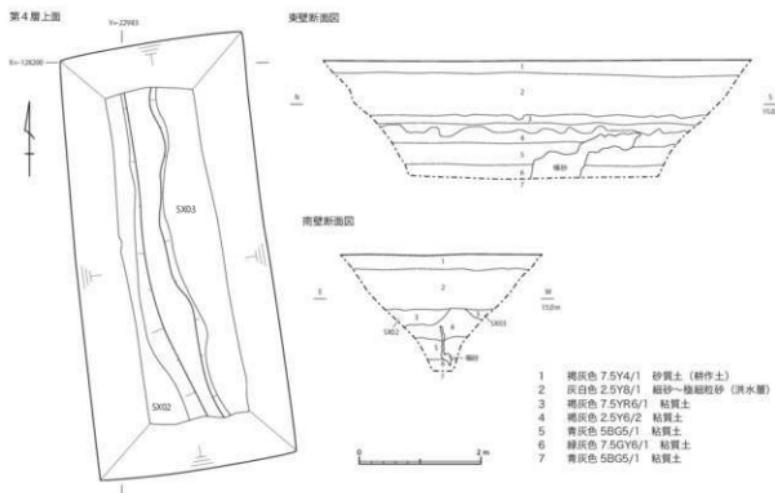
第4図 門田遺跡 H30-1tr 平面・断面図 (S=1/80)



第5図 門田遺跡 H30-2tr 平面・断面図 (S=1/80)

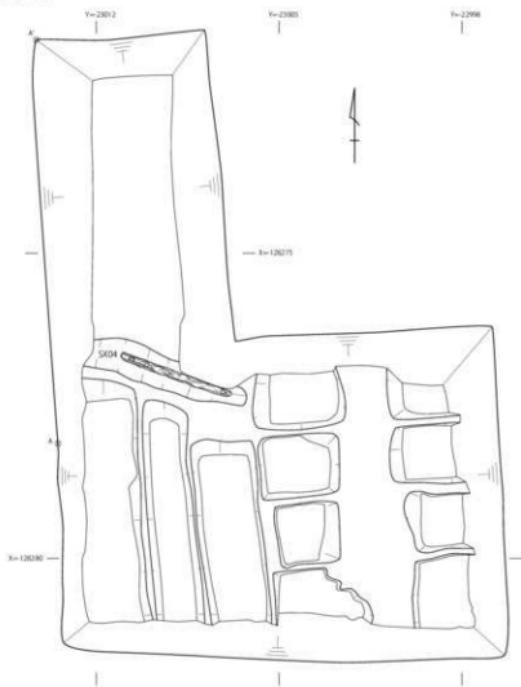


第6図 門田遺跡 H30-3tr 平面・断面図 (S=1/80)

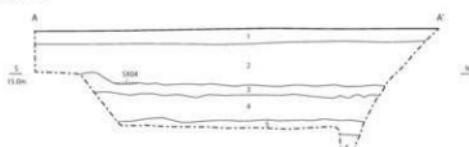


第7図 門田遺跡 H30-4tr 平面・断面図 (S=1/80)

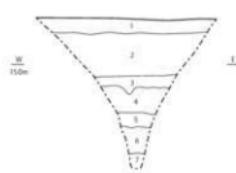
第3層上面



西壁断面図



北壁断面図



- 1 暗灰色 7.5Y4/1 砂質土 (耕作土)
- 2 灰白色 2.5Y6/1 粘粒砂～粘粗粒砂 (洪水層)
- 3 暗灰色 7.5Y6/1 粘質土
- 4 暗色 7.5YR6/2 粘質土
- 5 青灰色 5BG5/1 粘土
- 6 灰褐色 10YR6/1 粗粒砂
- 7 青灰色 5BG5/1 粘土

0 1 2m

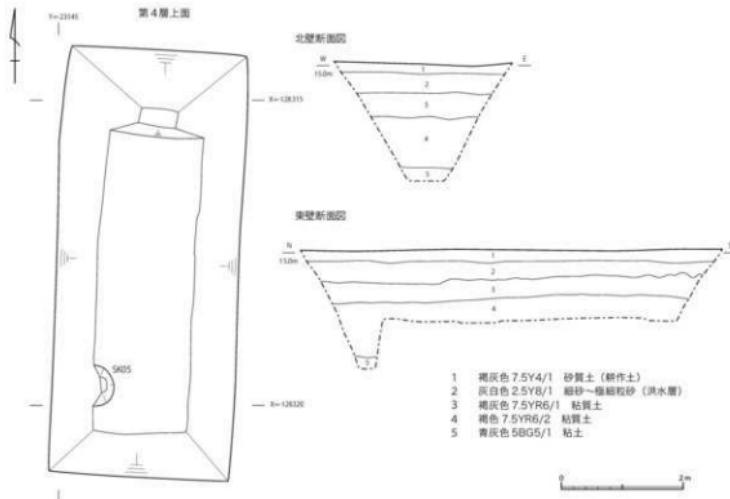
第8図 門田遺跡 H30-5tr 平面・断面図 (S=1/80)

第3調査区(H30-3tr) 第1・第2調査区の南方に設定した調査区。南半部に落ち込みがみられたが、性格は不明である。第3層から土師器細片が少量出土している。南壁際で下層確認を行ったが、湧水が激しく、第4層以下は柱状図の作成にとどめた。第3a層は液状化による砂と粘土の堆積とみられ、地震痕跡と考えられる。

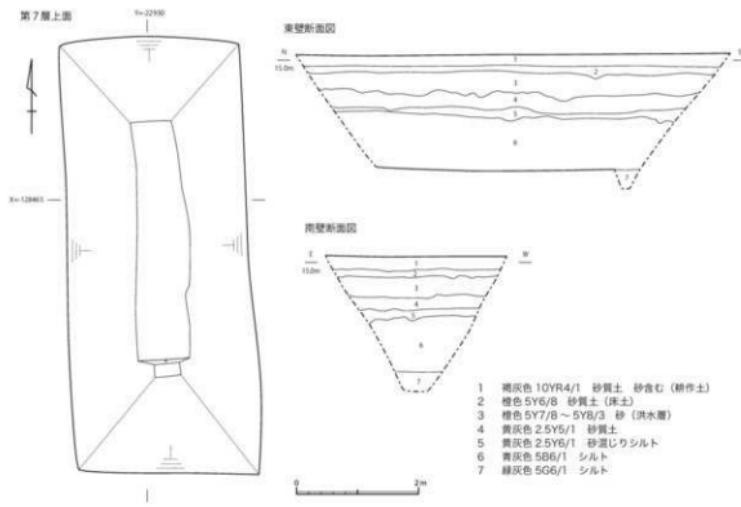
第4調査区(H30-4tr) 府道22号八幡木津線付近に設定した調査区。第4層上面でSX02、SX03を検出した。いずれも落ち込み状であり、性格は不明である。埋土は同一のものとみられる。SX03は底部に凹凸がみられた。SX02からは須恵器、土師器、瓦器の小片が、SX03からは土師器細片が少量出土した。第5層からは土師器壺（第13図-2）、須恵器坏蓋（第13図-3）が出土した。また、第5層上面で噴砂を検出したが、壁面では第4層内で噴出が止まっている様子が確認された。

第5調査区(H30-5tr) 初めは南北7m、東西3mの規模で設定したが、第3層上面で木製品（SX04）を検出したため、南と西に拡張した。拡張区東側では、砂が入った四角形の性格不明遺構を複数検出した。また、西側では同じく砂の入る溝状の落ち込みを検出したが、いずれもごく浅いものである。遺構から遺物は出土していないが、第3層からは須恵器が、第4層からは土師器・須恵器・瓦器が出土している。木製品は、近世後期以降の耕作に関連するものと考えられる。

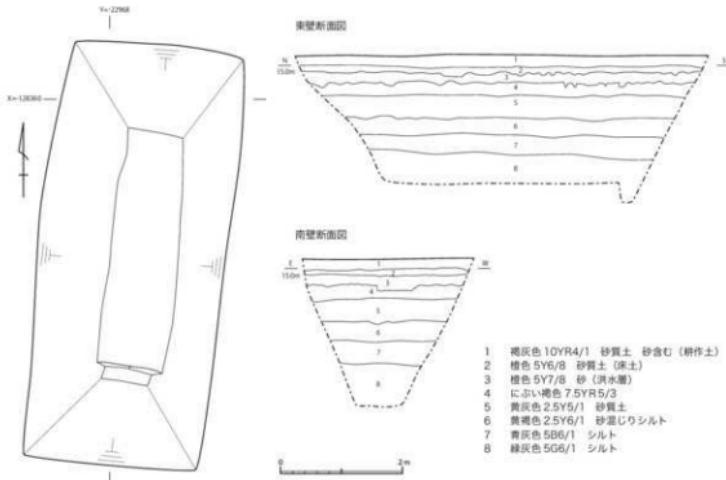
第6調査区(H30-6tr) 第3調査区の南方に設定した調査区。調査区南側の西壁際で土坑SK05を検出した。SK05からは、古墳時代のものとみられる土師器片や須恵器片が多く出土したが、古代～中世のものとみられる土師器細片も含まれる。その他の出土遺物としては、第4層から弥生土器（第13図-5）・土師器・須恵器・瓦器が、第5層からは土師器・須恵器が多く出土した。また、第4層上面及び壁面では、噴砂も観察された。



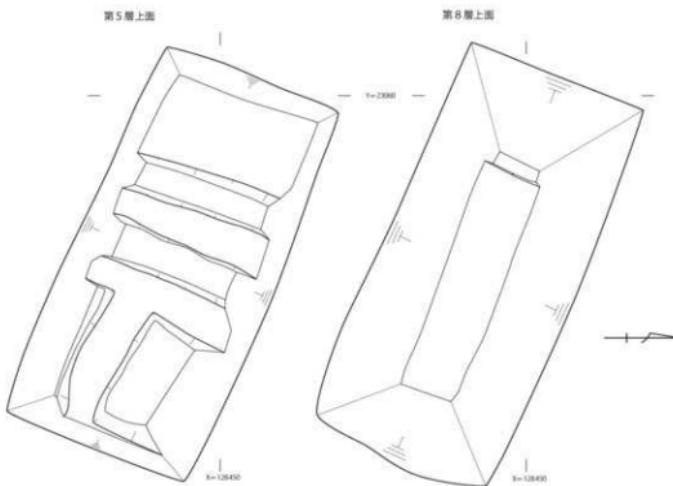
第9図 門田遺跡 H30-6tr 平面・断面図 (S=1/80)



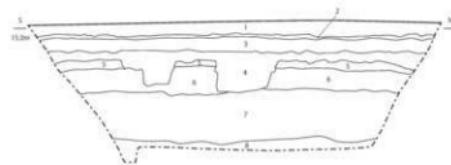
第10図 門田遺跡 H30-7tr 平面・断面図 (S=1/80)



第11図 門田遺跡 H30-8tr 平面図・断面図 (S=1/80)



東壁断面図



南壁断面図



第12図 門田遺跡 H30-9tr 平面・断面図 (S=1/80)

第7調査区（H30-7tr） 事業予定地の南東端に設定した調査区。遺跡外だが、範囲確認のため設定した。GL - 2m 以上掘削したが、遺構・遺物ともに検出されなかった。

第8調査区（H30-8tr） 第5調査区の南方に設定した調査区。遺構は検出されなかつたが、第4b層から土師器・瓦器の小片が、第5層から土師器・須恵器・瓦器の小片が出土した。

第9調査区（H30-9tr） 第8調査区の西方に設定した調査区。第5層上面で、第5調査区拡張区と類似する性格不明遺構を複数検出した。遺物は、第5層から土師器・須恵器・瓦器が出土した。

（3）出土遺物

本調査では、コンテナ1箱分の遺物が出土した。大半が細片または小片であったが、以下では、図化し得た主な遺物について、出土調査区ごとに概観する（第13図）。

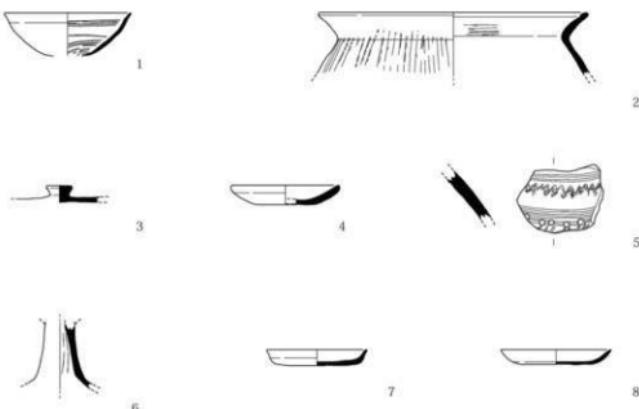
第1調査区（H30-1tr） 1は、瓦器椀である。第2層から出土した。内面は、口縁部を除き全面にヘラミガキを施す。外面はユビオサエのちナデで仕上げる。12世紀中葉の和泉型と考えられる。これまでに門田遺跡から出土した瓦器椀は大和型と桶葉型で占められ、和泉型の存在は例外的といえる。

第4調査区（H30-4tr） 2は、土師器の甕である。胎土はにぶい黄褐色を呈し、焼成はややあまい。古墳時代と考えられる。3は、須恵器の坏蓋である。奈良時代である。いずれも第5層から出土した。

第5調査区（H30-5tr） 4は、土師器の皿である。第2層から出土した。平安時代末期～鎌倉時代初頭と考えられる。

第6調査区（H30-6tr） 5は、弥生土器である。第4層から出土した。胎土は粗く、色調は明黄褐色を呈す。外面には櫛描文、竹管文、列点文を施す。内面は摩減しており、調整は不明である。6は、高坏の脚部である。SK05から出土した。色調は橙色を呈し、内面にはしづり痕が残る。外面調整は摩減のため不明である。古墳時代と考えられる。

第9調査区（H30-9tr） 7・8はいずれも土師器皿である。第5層から出土した。7は平安時代後期～鎌倉時代か。8は鎌倉時代と考えられる。



第13図 門田遺跡 平成30年度試掘調査 出土遺物 (S=1/4)

3. 令和2年度の調査（令和2年度第2次試掘調査）

（1）調査の経過

調査は令和2年11月24日に第3、第4調査区より開始した。その後、第2、第5、第1調査区の順に調査を行い、11月30日に終了した。

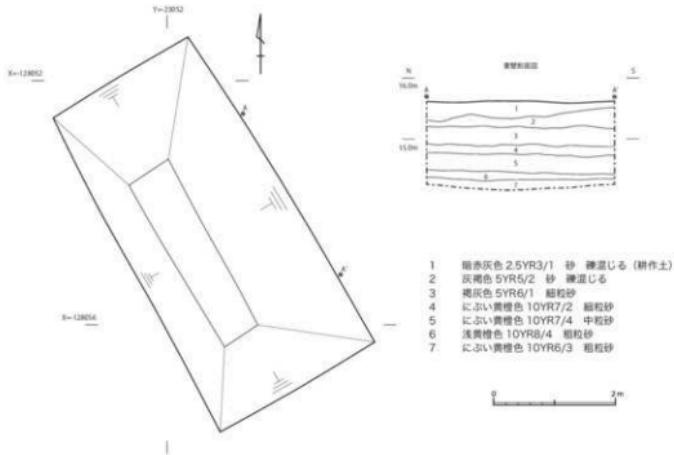
（2）調査の成果

事業予定地内に、5か所の調査区を設定した。以下では、調査区ごとに成果を概観する。

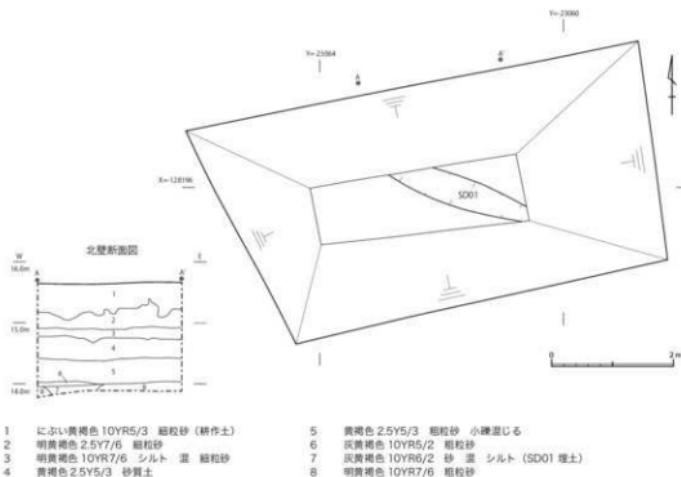
第1調査区（R2-2-1tr） 事業予定地北東角に府道22号線に沿って設定した調査区。第4層以下は黄褐色系の砂層で、GL - 1.2m 以下は粗粒砂層となり、湧水もみられたため、GL - 1.5m 程度で掘削を中止した。遺構・遺物は検出されていない。

第2調査区（R2-2-2tr） 事業予定地中央部付近に設定した調査区。耕作土（第1層）以下砂層が続くが、湧水はみられなかった。GL - 1.1m 程度で明黄褐色粗粒砂層（第8層）を検出したが、その上面でシルトの入る溝状遺構 SD01 を検出した。第5層及びSD01埋土（第7層）からは、土師器の細片が少量出土した。

第3調査区（R2-2-3tr） 事業予定地東側の市道沿いに設定した調査区。遺構は検出されなかつたが、旧耕作土とみられる第4層から、陶質土器とみられる土器片（第19図）が出土した。GL - 2.1 ~ 2.2m まで全面を掘り下げた後、一部でGL - 2.6m まで下層確認を行ったが、湧水が激しくなったため掘削を中止した。



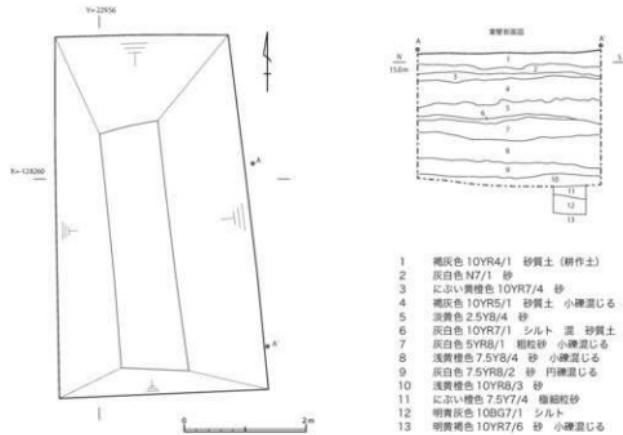
第14図 門田遺跡 R2-2-1tr 平面・断面図 (S=1/80)



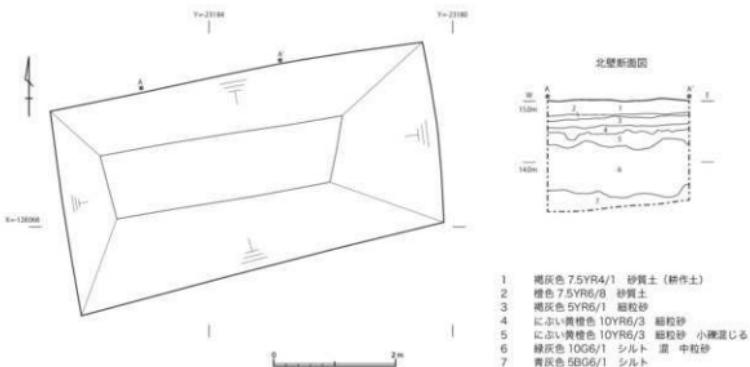
第15図 門田遺跡 R2-2-2tr 平面・断面図 (S=1/80)

第4調査区（R2-2-4tr） 事業予定地北側の市道沿いに設定した調査区。GL - 1.4m 程度で砂質土層から青灰色シルト層へと変わり、遺構・遺物の検出もなかったため、GL - 1.8m で掘削を中止した。

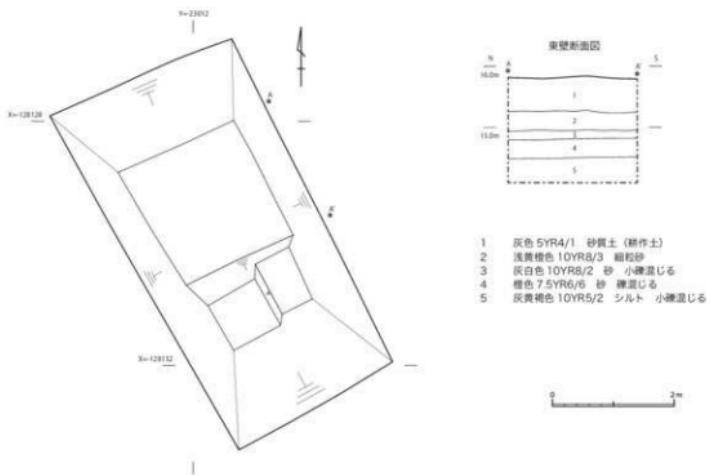
第5調査区（R2-2-5tr） 事業予定地東側の府道 22 号線沿いに設定した調査区。GL - 2 m まで掘削したが、遺構は検出されなかった。第5層上面で、須恵器小片が出土した。



第16図 門田遺跡 R2-2-3tr 平面・断面図 (S=1/80)



第17図 門田遺跡 R2-2-4tr 平面・断面図 (S=1/80)

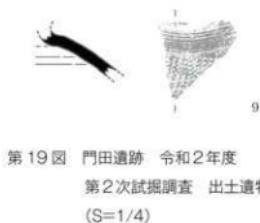


第18図 門田遺跡 R2-2-5tr 平面・断面図 (S=1/80)

(3) 出土遺物

遺物は第2、第3、第5調査区から少量出土した。

9 (第19図)は第3調査区から出土した須恵質の土器である。焼成がややあまく、外面は褐色、断面は橙色を呈す。外面には櫛描文及び格子タタキを施し、内面には工具を用いた横方向のナデがみられる。陶質土器など、渡来系の土器である可能性が考えられる。



第19図 門田遺跡 令和2年度
第2次試掘調査 出土遺物
(S=1/4)

4. 総括

門田遺跡では、平成30年度と令和2年度の2か年にわたり、合計25調査区で試掘調査を実施した。本書で報告する調査区では、H30-6trのSK05が中世以前の遺構とみられるが、そのほかは近世後期以降とみられる耕作痕跡の検出にとどまる。R2-2-2trのSD01も中世以前の遺構である可能性があるが、土師器細片しか出土しておらず、年代の特定はできていない。

令和2年度第1次調査も含めた全体の傾向としては、L = 14.0m程度で遺構が若干ではあるが検出されており、部分的に遺構面が存在すると考えられる。遺物は事業対象地の北部では少なく、中央部から南部にかけて多くなる。とりわけ、対象地の西部 (R2-1-4、R2-1-10、R2-1-11調査区) では残存状態の良い遺物が複数出土し、生活痕跡の存在が推測される。

付表1 門田遺跡 出土遺物一覧

報告番号	調査年次	調査区	遺構層位	種類	器種	法量(cm)	調整	胎土	色調	焼成	残存率	反転復元	備考
1	H30	1tr	第2層	瓦器	椀	口径:(10.2) 器高:(3.5) 底径:-	内:ヨコナデ、ヘラ ミガキ 外:ヨコナデ、ユビ オサエのちナデ	密	内:N4/0灰色 外:N4/0灰色	良	口縁部 1/5	あり	和泉型
2	H30	4tr	第5層	土師器	甕	口径:(11.8) 器高:(5.2) 底径:-	内:ヨコナデ、ハケ メのちナデ、ナデ 外:ヨコナデ、ハケ メ	やや 密	内:10YR7/2 に赤い黄橙色 外:10YR7/2 に赤い黄橙色	良	口縁部 1/10	あり	
3	H30	4tr	第5層	須恵器	杯蓋	口径:- 器高:(1.9) 底径:- つまみ径: 2.1	内:回転ナデ 外:回転ナデ、回転 ヘラケズリ	密	内:N6/0灰色 外:N6/0灰色	良	天井部 1/5	あり	
4	H30	5tr	第2層	土師器	皿	口径:(8.8) 器高:(1.6) 底径:-	内:ヨコナデ、ナデ 外:ヨコナデ、ナデ	密	内:10YR8/4 浅黄橙色 外:10YR8/4 浅黄橙色	良	1/4	あり	
5	H30	6tr	第4層	弥生土器	壺	口径:- 器高:(4.0) 底径:-	内:摩滅のため不明 外:ナデ、櫛描直線文、櫛描波状文、竹管文、櫛描列点文	やや 粗	内:25Y6/1 黄灰色 外:10YR7/6 明黄褐色	良	体部片	なし	
6	H30	6tr	SK05	土師器	高杯	口径:- 器高:(5.3) 底径:-	内:シボリ目、ナデ 外:摩滅のため不明	密	内:5YR6/8 橙色 外:5YR6/8 橙色	良	柱状部 2/3	あり	
7	H30	9tr	第5層	土師器	皿	口径:(8.2) 器高:1.3 底径:(5.0)	内:ヨコナデ、ナデ 外:ヨコナデ、ナデ	密	内:10YR6/2 灰黄褐色 外:10YR6/2 灰黄褐色	良	1/4	あり	
8	H30	9tr	第5層	土師器	皿	口径:(9.0) 器高:1.2 底径:(5.8)	内:ヨコナデ、ナデ 外:ヨコナデ、ユビ オサエのちナデ	密	内:10YR8/4 浅黄橙色 外:10YR8/4 浅黄橙色	良	1/4	あり	
9	R2	3tr	第4層	渡来系土器	壺	口径:- 器高:(3.8) 底径:-	内:ナデ。工具によ る横方向のナデ 外:ヨコナデ、カキ メ、貉子タタキ	密	内:5YR6/6 橙色 外:10YR6/1 褐灰色	良	体部片	なし	

第3章 興戸遺跡

1. 調査に至る経緯

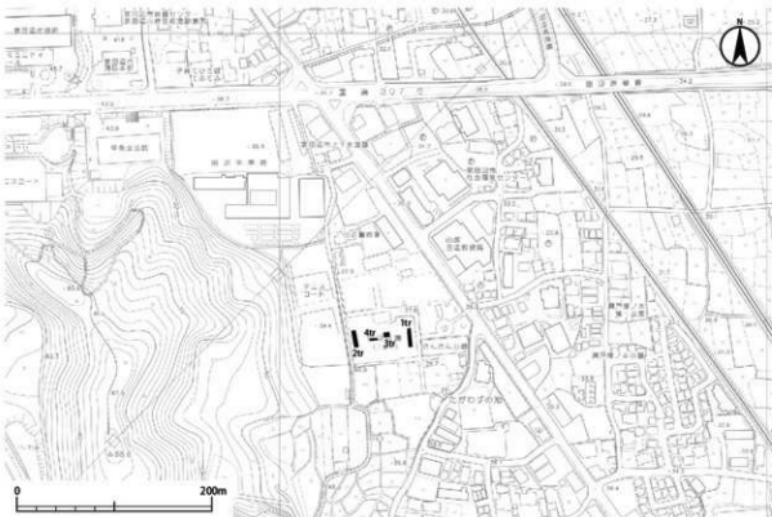
興戸遺跡は、京田辺市興戸に位置する、縄文時代から中世にかかる複合遺跡である。周辺には京田辺市役所や京都府田辺警察署、京田辺市立田辺中学校などが所在しており、市の中心部であることから開発行為も多く、本発掘調査が令和5年3月時点で19次にわたり行われている。遺跡内には興戸廃寺も重なって位置するが、廃寺に関わる遺構が検出された例はなく、瓦の採集にとどまる。

平成28年度より、本市では、京都府立農事試験場（後の府立山城園芸研究所、現在は廃止）の跡地において田辺公園拡張整備事業に着手した。これを受け、本市教育委員会では、令和元年度に、施工予定地の一部である「さんさん山城」西側の区画において試掘調査を実施することになった。

周辺では、昭和54年（1979）に現在の「さんさん山城」敷地内で調査が行われ、古墳時代後期の堅穴建物や奈良時代～平安時代の掘立柱建物が検出されている（第2次調査）。平成6年（1994）には、本調査地北西の丘陵端部において、鉄塔建て替えに伴う調査が行われた（第12次調査）。鎌倉時代の遺物包含層が確認され、灰釉陶器や中国製の青磁・白磁といった高級陶磁器や銅鏡が出土している。平成23年に実施された京都府田辺警察署敷地内の調査では、奈良時代～平安時代の柱列が検出され、複数の掘立柱建物である可能性が指摘されている（第17次調査）。

《調査体制》

調査主体	京田辺市教育委員会
調査責任者	京田辺市教育委員会 教育長 山岡弘高
調査指導	京都府教育委員会・京田辺市文化財保護委員会
調査担当者	京田辺市教育委員会 教育総務室 文化振興室 綾部美輪
発掘技術員	やましろ文化財株式会社 石山淳
発掘作業委託	やましろ文化財株式会社



第20図 興戸遺跡調査区配置図 (S=1/5,000)

2. 令和元年度の調査

(1) 調査の経過

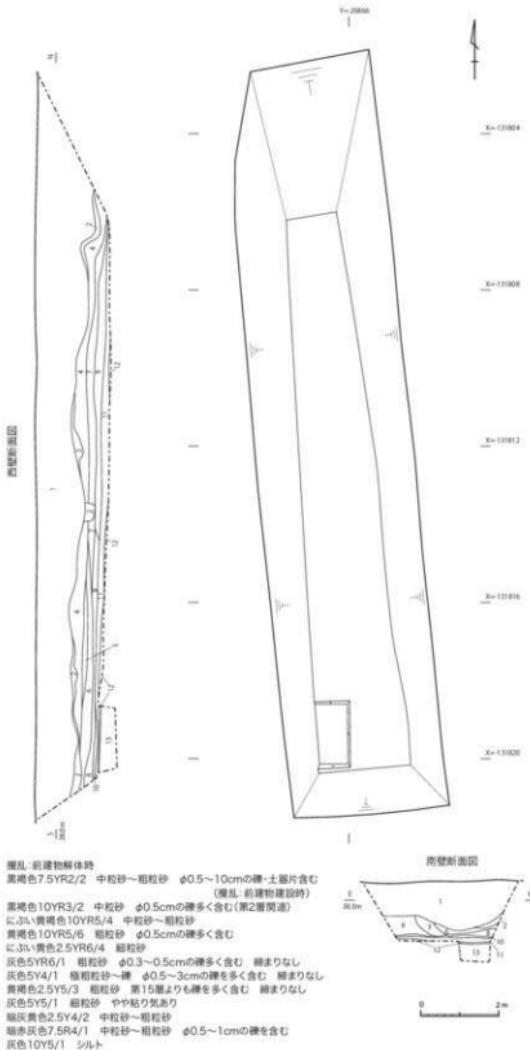
令和元年11月26日より資機材等の搬入作業を行い、掘削は12月19日に開始した。まず最も東に位置する第1調査区より重機掘削を行い、翌日20日に調査対象地西側の第2調査区の重機掘削を行った。23日には中央部に位置する第3調査区の掘削を開始した。第3調査区において遺構面が確認されたため、以後の調査は本調査区を中心に進めることとなった。遺構の範囲を確認するため、令和2年1月30日に第3調査区の西側に第4調査区を設定し、調査を行った。2月5日に、すべての調査を終了した。

(2) 調査の成果

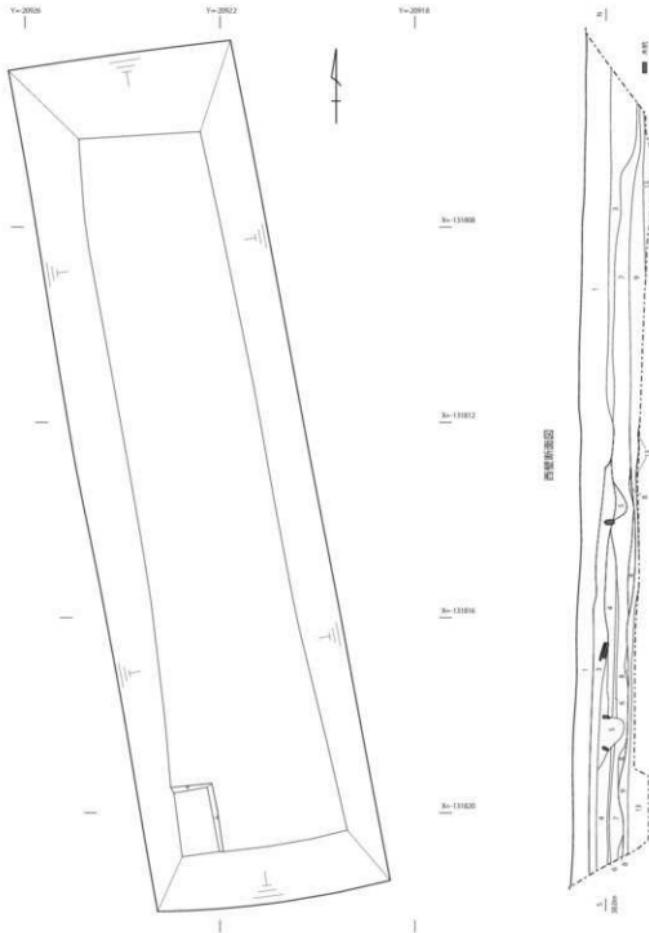
調査対象地内に、4か所の調査区を設定した。以下では、調査区ごとに成果を概観する。

第1調査区 調査対象地東側に設定した、南北19m、東西4mの調査区。第1層は府立山城園芸研究所の建物基礎による搅乱である。第4層はよく締まる土質であり、弥生土器、土師器、須恵器が出土したため、遺構面である可能性を考え精査したが、遺構は検出されなかった。遺物の検出状況等から、研究所建物の搅乱により遺物が混入したものと考えられる。

第2調査区 調査対象地西側に設定した、南北17.5m、東西4.5mの調査区。第3層及び第5層か

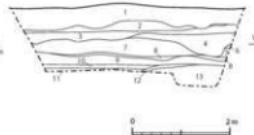


第21図 興戸遺跡 第1調査区平面・断面図 (S=1/125)



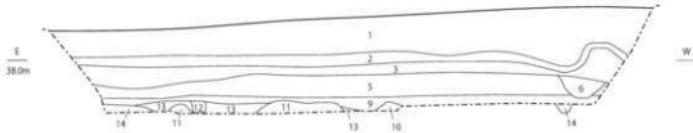
- 1 オリーブ褐色 2.5YR4/3 粗粒砂 線合む (現代土)
 2 線状黄色 2.5YR5/2 中粒砂～粗粒砂 $\phi 0.5\sim1cm$ の礫多く含む
 3 黄褐色 2.5YR5/3 粗粒砂 線まりあり
 4 線状黄色 2.5YR4/1 粗粒砂 $\phi 1\sim3cm$ の礫多く含む
 5 線状赤色 2.5YR3/1 粗粒砂 $\phi 5\sim10cm$ の礫含む
 6 赤褐色 2.5YR6/1 中粒砂 線まりなし
 7 線状褐色 2.5YR4/2 粗粒砂 $\phi 0.3\sim1.5cm$ の礫含む
 8 黄褐色 2.5YR5/3～オリーブ褐色 2.5Y4/3 粗粒砂～中粒砂 線まりなし
 9 にじいろ褐色 2.5YR6/3 粗粒砂 線まりなし
 10 にじいろ褐色 2.5YR6/3 粗粒砂 $\phi 0.5\sim3cm$ の礫多く含む 線まりなし
 11 細オーリーブ褐色 2.5Y3/3 粗粒砂 $\phi 0.3\sim15cm$ の礫含む
 12 黒褐色 1.0YR3/2 粗粒砂 やや粘り気あり
 13 黄褐色 2.5YR4/1～黒褐色 2.5Y3/1 中粒砂～粗粒砂

南壁断面図

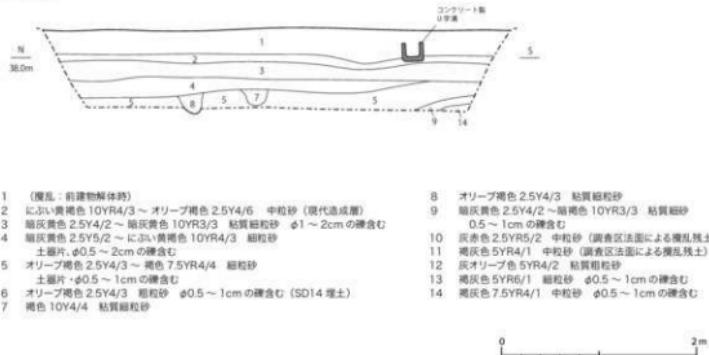


第22図 兴戸遺跡 第2調査区平面・断面図 (S=1/100)

南壁断面図



東壁断面図



第23図 兴戸遺跡 第3調査区南壁・東壁断面図 (S=1/50)

らは木杭が検出され、中世～近世の耕作痕跡と考えられる。GL - 1.5m程度まで掘削したが、遺構・遺物ともに検出されなかった。

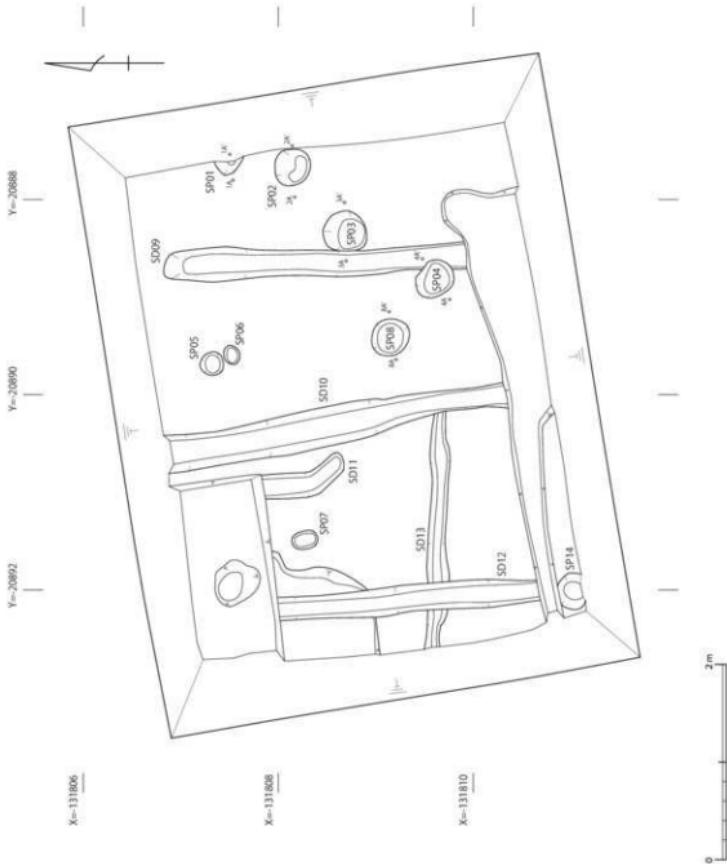
第3調査区 調査対象地中央部に設定した、南北6m、東西8mの調査区。第1層は研究所の搅乱、第2層は研究所建設時の造成層と考えられる。L = 37.5m ~ 37.6m程度の第5層上面で第1遺構面を、さらに約0.1m掘り下げたL = 37.4m ~ 37.5m程度で第2遺構面を検出した。

〔第1面〕ピット8基、溝6条を検出した(第24図)。遺構断面図を作成したものについては、第25図に示した。

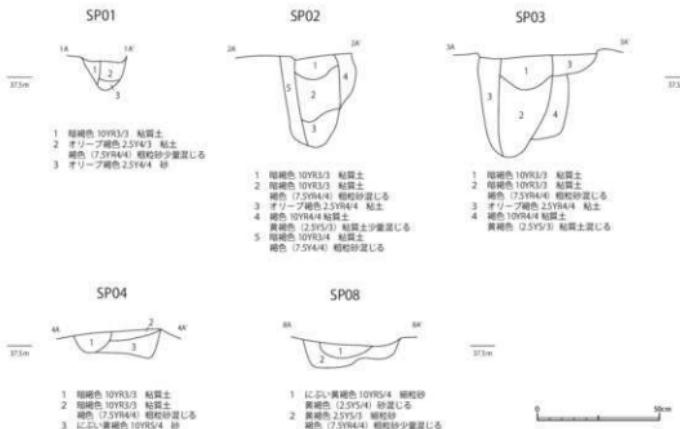
ピットSP05、SP06、SP07及び溝SD09、SD10は各1層からなり、埋土は同一である(褐色混じる灰黃褐色砂)。SP02とSP03は柱穴様のピットで、埋土も類似する。SP02は直径約30cm、深さ約35cmで、柱痕とみられる部分からは、古代のものとみられる土師器の細片が出土した。

〔第2面〕多数のピットを検出したほか、土坑、L字状の溝を検出した(第26図)。遺構断面図を作成したものについては、第27図に示した。

SP15、SP23、SP25、SP29、SP30、SP33、SP35、SP36は柱穴様のピットである。SP15からは土師器の細片が、SP23からは弥生土器と古墳時代の土師器が出土している。土坑SK20は、径約60cm、深さ約50cmで、古墳時代～古代の土師器・須恵器が出土している。性格不明遺構SX22は、



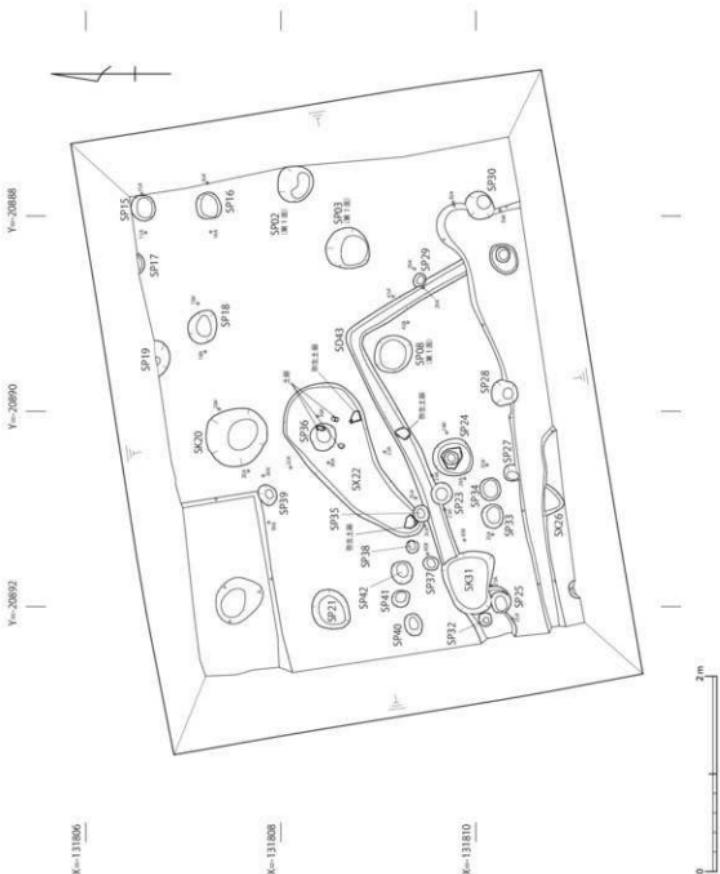
第24図 興戸遺跡 第3調査区第1面平面図 (S=1/50)



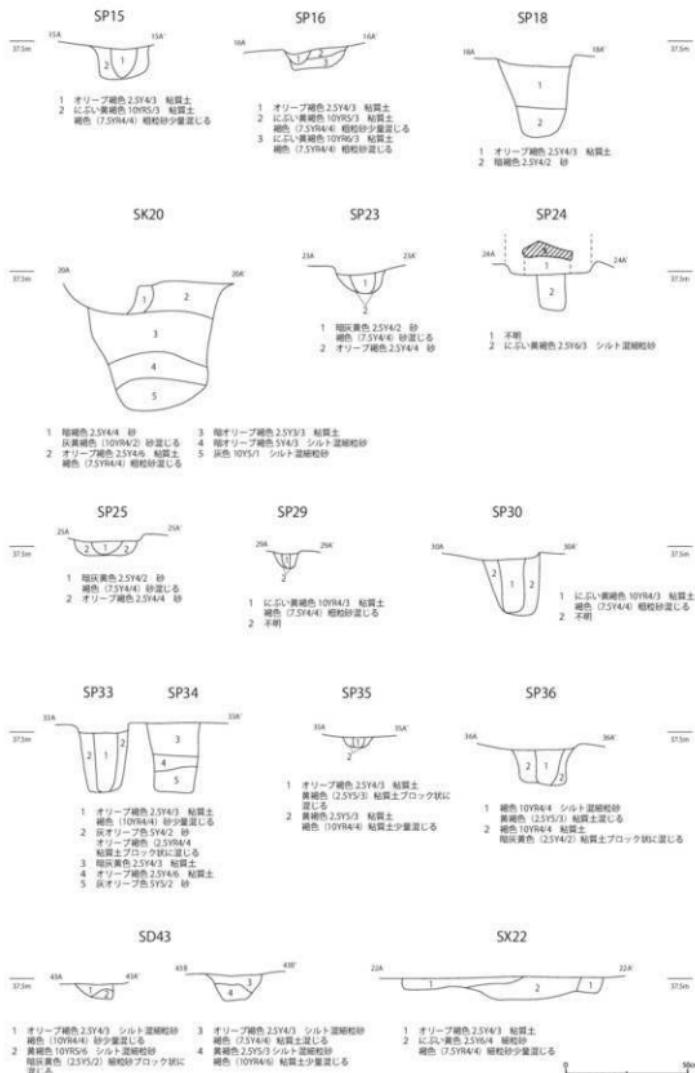
第25図 興戸遺跡 第3調査区第1面遺構断面図 (S=1/20)

不定形で、深さは約10cmと浅いが、弥生土器の壺または甕の体部をはじめとする弥生土器や、土師器が出土した。SX22の南ではL字状の溝SD43が検出された。幅約15~20cm、深さ約5~10cmで、方位はN32°Wと、古山陰・山陽道の傾きに沿う。方形の堅穴建物の壁溝と考えられ、内部から複数のピットが検出されたが、南側の搅乱により切られており検出範囲が狭いため、建物の柱穴は特定できなかった。SD43からは、弥生土器の壺または甕の肩部、土師器、須恵器が出土している。SP24からは礎石状の石が検出されているが、検出状況より、礎石ではなく堅穴建物に伴うものであると考えられる。

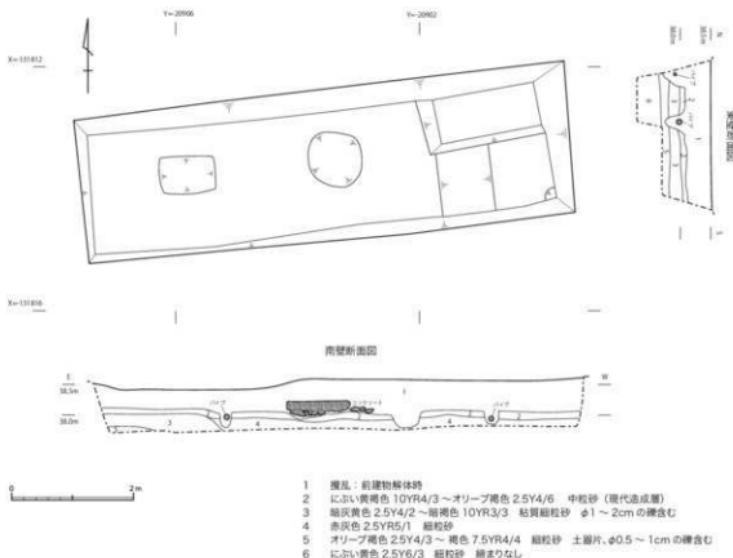
第4調査区 南北2.5m、東西8mの調査区。第3調査区で遺構・遺物が多数出土したことから、遺構面の範囲確認のため設定した。第1層は研究所施設等による搅乱であり、L=37.3m程度まで掘り下げたが、広範囲に搅乱が広がり、遺構・遺物とともに検出されなかった。



第26図 興戸遺跡 第3調査区第2面平面図 (S=1/50)



第 27 図 舞戸遺跡 第3調査区第2面遺構断面図 (S=1/20)



第28図 奥戸遺跡 第4調査区平面・断面図 (S=1/80)

(3) 出土遺物

本調査では、コンテナ2箱分の遺物が出土した。大半が細片または小片であったが、以下では、図化し得た主な遺物について、出土調査区ごとに概観する。

第1調査区 10・11は、須恵器壺蓋である。10は奈良時代、11は奈良時代後期～平安時代初期と考えられる。

第3調査区 12は、弥生土器の壺または壺の体部である。SD43から出土した。胎土にはにぶい橙色で、白色の石粒を含む。弥生時代中期後半と考えられる。13は、須恵器壺蓋である。SD43から出土した。古墳時代後期と考えられる。14は、瓦である。表面に繩目タタキ痕、裏面に布目が残る。15は、土師器皿である。復元口径は9.6cmで、胎土は浅黄橙色を呈す。平安時代後期と考えられる。

4. 総括

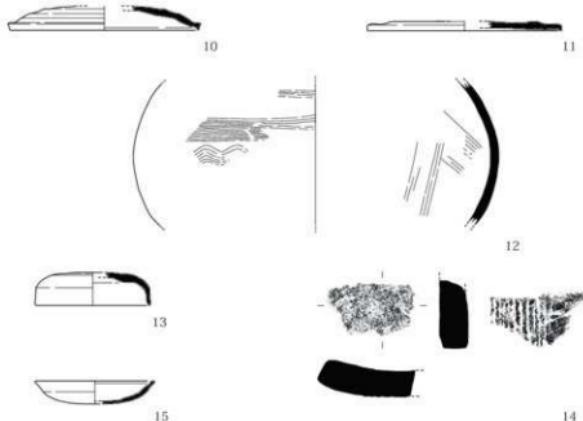
今回設定した調査区の大半は研究所建物により搅乱されていたが、第3調査区では複数の遺構が検出された。東調査区でも遺物は出土したが、すべて研究所建物の搅乱から出土したものである。

第3調査区第1遺構面では、ピット及び溝が検出された。ピットは検出範囲が狭く柱列とは認められなかつたが、古山陰・山陽道に平行、直行して並ぶように見える。遺物が少ないため断定はでき

ないが、古代まで遡る遺構面である可能性も考えられる。

第2遺構面では、堅穴建物の壁溝とみられる溝が検出された。角度はN32°Wと古山陰・山陽道の傾きに沿い、出土遺物からも古代の遺構であると考えられる。

今回の調査により、研究所建物が建設されなかった地点については、古代の遺構面が残存していることが確認できた。今後の開発にあたっては、さらなる試掘調査を実施し、遺構面の広がりを確認する必要がある。



第29図 興戸遺跡出土遺物 (S=1/4)

付表2 興戸遺跡 出土遺物一覧

報告番号	調査区	遺構層位	種類	器種	法量(cm)	調整	胎土	色調	焼成	残存率	反転復元	備考
10	1tr	擾乱	須恵器	杯蓋	口径:(15.6) 器高:(2.0) 底径:-	内:回転ナデ 外:回転ハラケズ リ、回転ナデ	密	内:N5/0灰黄色 外:N5/0灰黄色	良	口縁部 1/5	あり	
11	1tr	擾乱	須恵器	杯蓋	口径:(16.0) 器高:(0.8) 底径:-	内:回転ナデ 外:回転ハラケズ リ、回転ナデ	密	内:N7/0灰白色 外:N7/0灰白色	良	口縁部 1/6	あり	
12	3tr	SD43	弥生土器	壺 または 甕	口径:-(11.5) 器高:(2.7) 底径:-	内:ハケ 外:ナデ、横描直 線文、横描波状文	やや粗	内:75YR7/3にぶい橙 外:75YR7/3に45%橙	良	体部片	なし	黒斑あり 胎土に白色石 粒を含む
13	3tr	SD43	須恵器	杯蓋	口径:(8.2) 器高:(2.7) 底径:(6.8)	内:回転ナデ 外:回転ナデ、回 転ハラケズリ	密	内:N7/0灰白色 外:N7/0灰白色	良	1/12	あり	
14	3tr	不明	瓦	平瓦	長:(5.5) 幅:(8.0) 厚:2.4"	凹:布目板、ヘラ 切り、ナデ 凸:綱目タタキ	やや粗	凹:N7/0灰白色 凸:N7/0灰白色	良	破片	なし	
15	3tr	不明	土師器	皿	口径:(9.6) 器高:19 底径:-	内:ナデ 外:ナデ	密	内:10YR8/6黄橙色 外:75Y8/4浅黄橙色	やや不良	1/4	あり	

第4章 稲葉遺跡

1. 調査に至る経緯

稲葉遺跡は、京田辺市田辺明田・石塚・蕪木など地内に位置する、縄文時代から近世にかかる複合遺跡である。遺跡内及び周辺にはJR京田辺駅や近鉄新田辺駅、京都府田辺総合庁舎などが所在している。

本市では、当該遺跡内において新市街地の整備を計画している。事業は令和5年度より着手予定であることから、事業に先立ち、施工予定地における遺跡の範囲及び内容確認を目的とした調査を実施することとなった。

稲葉遺跡では、これまでに7次にわたる本発掘調査が実施されている。今回の調査地付近では、京都府田辺総合庁舎の建設に伴う調査が昭和51年（1976）に実施され、平安時代前期の墨書き土器をはじめとする官衙的な遺物が見つかっている（第1次調査）。平成4年（1992）には、東側に走る市道の建設に伴う調査が行われたが、顯著な遺構・遺物はみられず、少なくとも中世期には深い沼沢地が広がっていたとみられる（第3次調査）。平成9年には、南に位置する商業施設の建設に伴う調査が行われ、弥生時代前期の方形周溝墓が検出されている（第4次調査）。

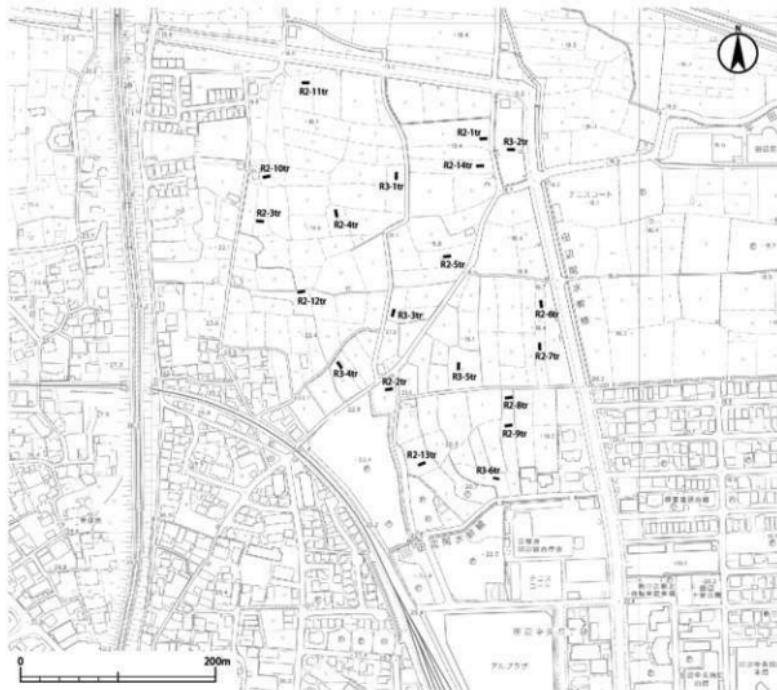
《調査体制》

令和2年度

調査主体	京田辺市
調査責任者	京田辺市長 上村崇
調査指導	京都府教育委員会・京田辺市文化財保護審議会
調査担当者	京田辺市民部文化・スポーツ振興課 綾部美輪
発掘技術員	有限会社京都平安文化財 植山茂
発掘作業委託	有限会社京都平安文化財

令和3年度

調査主体	京田辺市
調査責任者	京田辺市長 上村崇
調査指導	京都府教育委員会・京田辺市文化財保護審議会
調査担当者	京田辺市民部文化・スポーツ振興課 吉兼千陽
発掘作業委託	東海アーナス株式会社



第30図 稲葉遺跡調査区配置図 (S=1/5,000)

2. 令和2年度の調査

(1) 調査の経過

令和2年12月1日に資機材の搬入を行い、翌2日より掘削を開始した。調査区はすべて3m×8mの規模で設定した。まず重機により表土を掘削し、その後人力で掘り下げた。調査は第2調査区と第13調査区から開始し、その後第4、第12、第3、第10、第11、第1、第14、第5、第6、第7、第9、第8調査区の順に掘削した。なお、調査後も継続して耕作を行う箇所については、耕作土と以下の土を分別して排土、埋め戻しを行った。

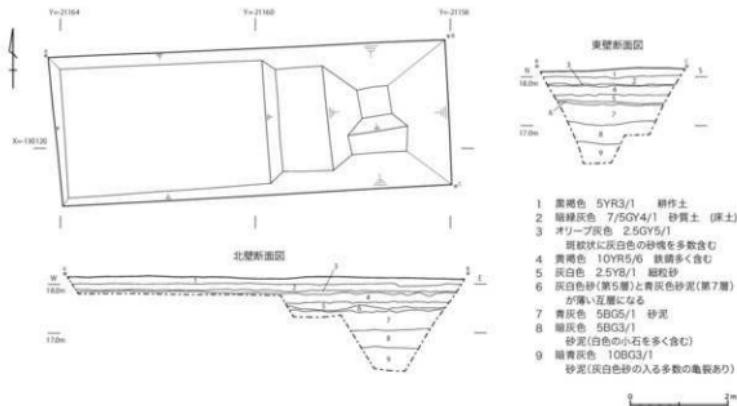
(2) 調査の成果

第1調査区 (R2-1tr) 調査対象地北方の畠地に設定した調査区。北東部でGL-約2mまで掘削した。遺構は検出されなかったが、壁面において地震痕跡が確認された。第5層は液状化現象による砂泥の広がりとみられ、第9層の灰白色砂の入る亀裂もまた噴砂によるものとみられる。湧水はみら

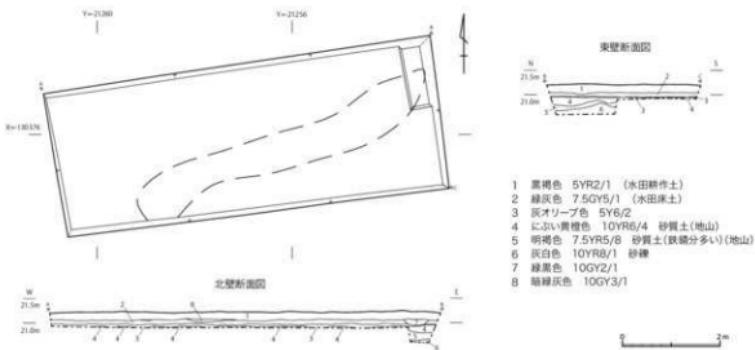
れなかった。遺物は、第9層から土師器小片が、第2層から白色の埴底片（「カガシ」銘あり）が出土した。

第2調査区(R2-2tr) 調査対象地南寄りの水田に設定した調査区。GL ~ 0.35m程度で地山（第4層）を検出した。上面で砂礫層が溝状に検出されたため、確認のため北東端で下層確認を行ったが、当該層がさらに下層へ続いていく様子が観察された（第6層）。当該地は南西部から北東に傾斜する場所にあたり、耕作地化された際に水平に削平されたものとみられる。遺物は第2層から瓦器細片が1点のみ出土した。

第3調査区(R2-3tr) 調査対象地西端付近の旧耕作地に設定した調査区。遺跡範囲外だが、範囲確認のために設定した。耕作土下は砂泥層となり（第3層以下）、第4層以下では全面から湧水があり



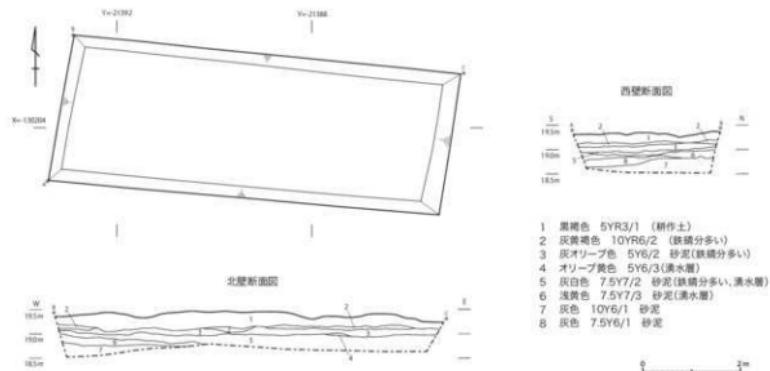
第31図 稲葉遺跡 R2-1tr 平面・断面図 (S=1/100)



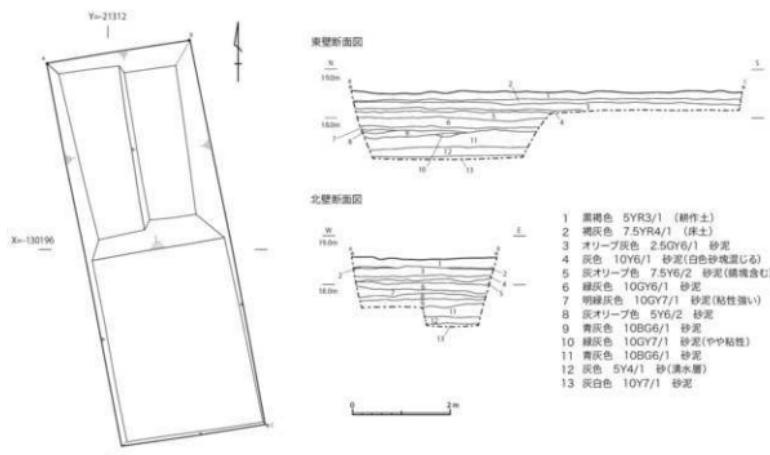
第32図 稲葉遺跡 R2-2tr 平面・断面図 (S=1/100)

られた。GL - 0.7m 程度まで掘削したが、遺構は検出されなかった。遺物は、第3層から土師器や陶磁器の小片が出土した。中国製青磁碗の小片も1点出土している。

第4調査区 (R2-4tr) 遺跡範囲外に設定した調査区。現況は水田である。耕作土及び床土の下層は砂泥層となり、GL - 1.4m 程度まで掘削したが、遺構は検出されなかった。遺物は、第3層から近世の捕鉢や木片が、第6～8層から土師器や近世陶磁器が、第11層から土師器・焼締陶器・木片が出土した。第12～13層では湧水が多くみられた。



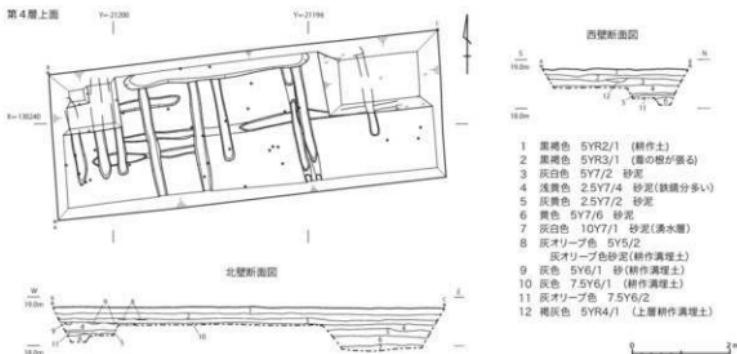
第33図 稲葉遺跡 R2-3tr 平面・断面図 (S=1/100)



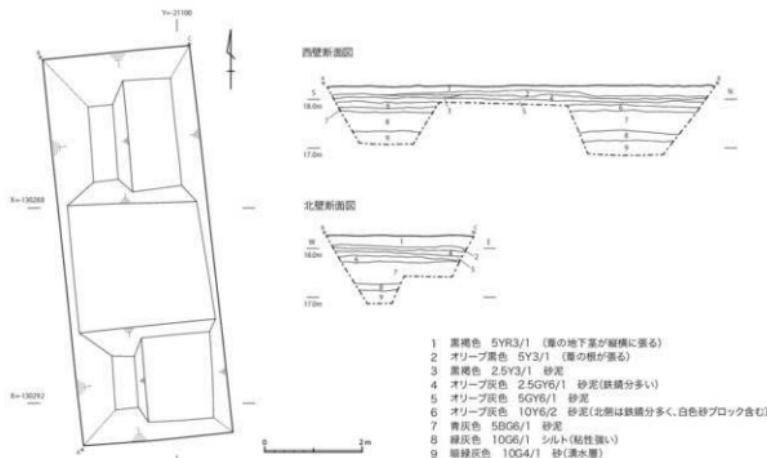
第34図 稲葉遺跡 R2-4tr 平面・断面図 (S=1/100)

第5調査区（R2-5tr） 調査地の現況は水田である。第3層上面及び第4層上面で耕作痕跡を検出した。第3層上面のものは現代水田耕作に伴うもので、東西方向の溝を1条検出した。第4層上面では、多数の坑跡と複数の耕作溝を検出した。東西方向の溝群と南北方向の溝群があるが、概ね南北方向溝が東西方向溝を切る。埋土はいずれも同一で（第9層）、現代の耕作痕跡と考えられる。遺物は、第2～3層から木製品・陶磁器片・瓦片が、第4層から陶磁器片・チャートが出土している。また、壁面整形時に、中国製青磁の小片が出土した。

第6調査区（R2-6tr） 調査対象地東側の旧耕作地に設定した調査区。表土には草が密生し、根が



第35図 稲葉遺跡 R2-5tr 平面・断面図 (S=1/100)

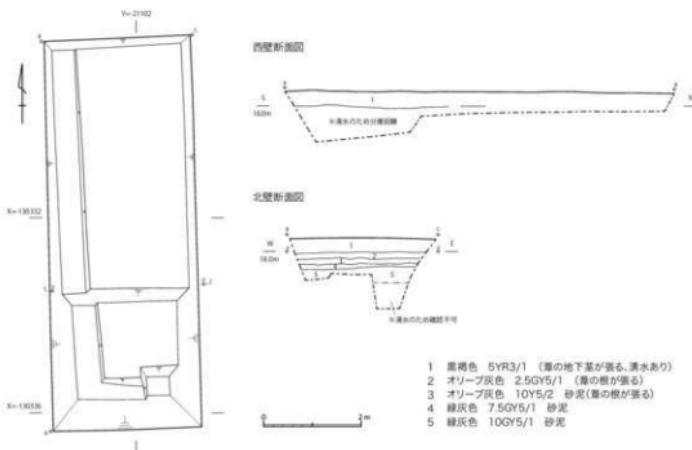


第36図 稲葉遺跡 R2-6tr 平面・断面図 (S=1/100)

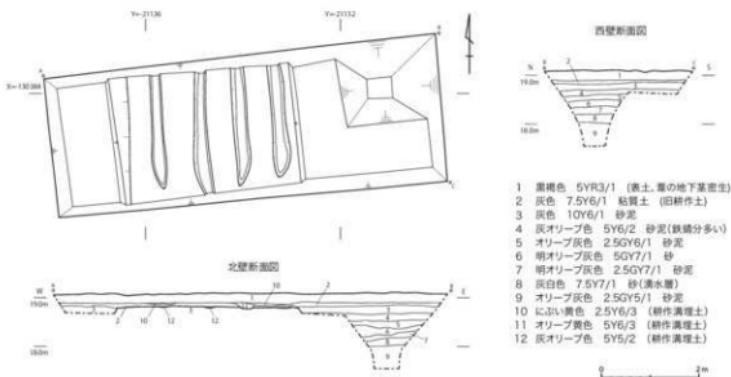
GL - 1m 程度まで伸びていた。GL - 約1.4mで湧水があった。GL - 約1.6mまで掘削したが、遺構は検出されなかった。遺物は、第3～4層及び第9層から、瓦質土器片が少量出土した。

第7調査区 (R2-7tr) 第6調査区の南側に設定した調査区。湧水が著しく、壁面の分層も困難な状態であった。遺物は第2～4層から、瓦器碗の底部片と土師器の灯明皿小片が各1点出土した。

第8調査区 (R2-8tr) 旧耕作地に設定した調査区。第2層上面で現代の耕作溝を5条検出した。以下は砂泥層が続き、GL - 1.1mで湧水がみられた。第3～4層からは、近世以降の瓦や陶磁器のほか、中国製青磁や土師器の細片もわずかに出土した。



第37図 稲葉遺跡 R2-7tr 平面・断面図 (S=1/100)

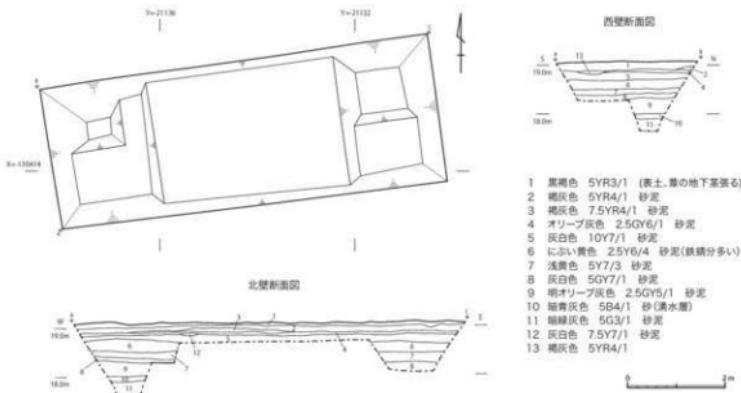


第38図 稲葉遺跡 R2-8tr 平面・断面図 (S=1/100)

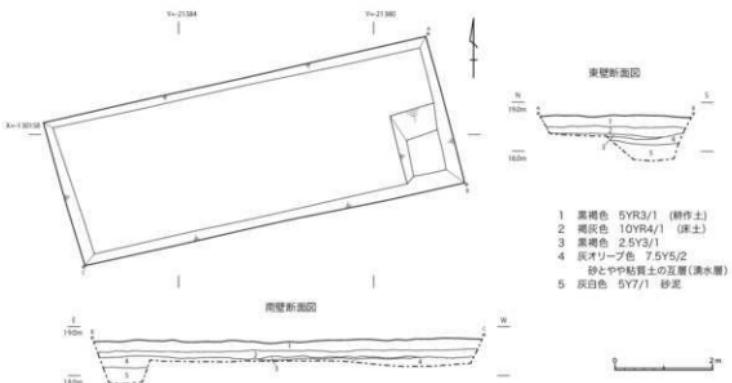
第9調査区 (R2-9tr) 第8調査区の南に設定した調査区。北西角で GL - 1.5m 程度掘り下げ、第10層では湧水がみられた。遺物は、第6～8層で近世の土器・陶磁器が、第10層で中国製白磁碗と瓦器碗(和泉型)が出土した。遺構は検出されていない。

第10調査区 (R2-10tr) 調査対象地の西端付近、遺跡範囲外の水田に設定した調査区。全体に GL - 0.4～0.5mまで掘り下げ、南東部のみ GL - 0.9mまで掘削したが、遺構は検出されなかつた。遺物は、第2層から須恵器壺片が1点出土した。

第11調査区 (R2-11tr) 調査対象地の北西角付近、遺跡範囲外の水田に設定した調査区。第4層は白色砂塊を多く含むが、地震痕跡である可能性が考えられる。北東角を断ち割り下層確認を行ったが、GL - 1.2mで湧水層(第9層)となり掘削を中止した。遺構・遺物ともに検出されていない。



第39図 稲葉遺跡 R2-9tr 平面・断面図 (S=1/100)

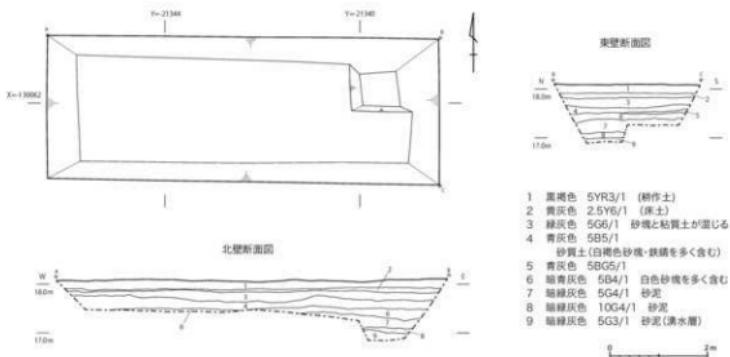


第40図 稲葉遺跡 R2-10tr 平面・断面図 (S=1/100)

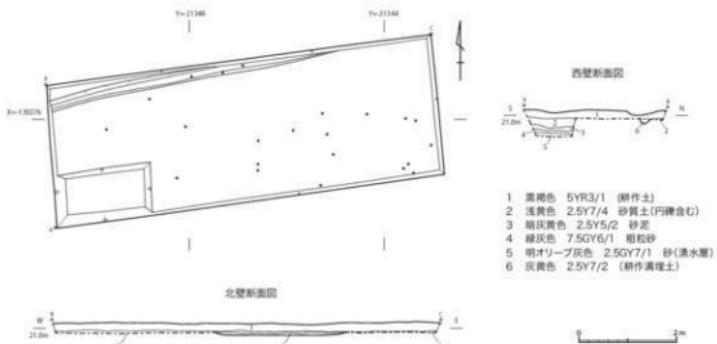
第12調査区(R2-12tr) 調査地の現況は畑地である。耕作土直下は小円礫を含む浅黄色の砂質土(第2層)で、地山と考えられる。直上から土師器片及び近世陶器片が少量出土した。第2層上面で検出した耕作溝埋土(第6層)からは、瓦質土器片が1点出土した。耕作溝とともに、多数の杭跡も検出されている。南西角で下層確認を行ったが、GL - 0.6m程度で灰色砂層となり湧水がみられた。

第13調査区(R2-13tr) 調査地の現況は水田である。耕作土及び床土の直下で地山を検出した(第3層)。地山は削平されたものとみられる。上面から、複数の南北方向の耕作溝及び杭跡を検出した。遺物はいずれも小片だが、第2層(床土)から須恵器・土師器・染付などが、第5層(耕作溝埋土)から土師器、近世陶器などが出土した。

第14調査区(R2-14tr) 第1調査区の南に設定した調査区。現況は水田である。耕作土下を概ね層ごとに段掘りし、北西角はGL - 約2mまで掘削した。第1調査区でみられた白色砂層(第1調査

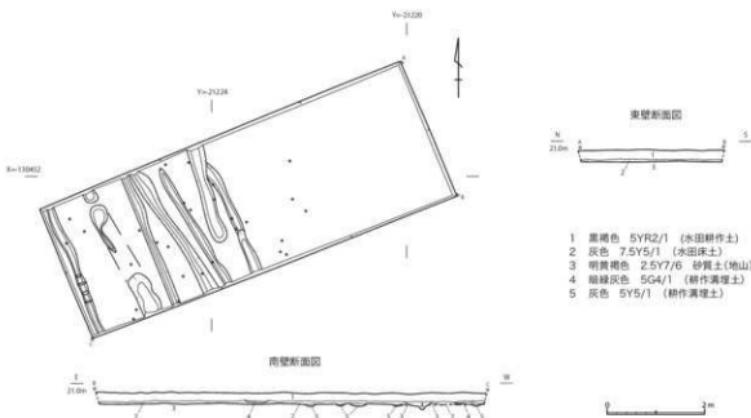


第41図 稲葉遺跡 R2-11tr 平面・断面図 (S=1/100)

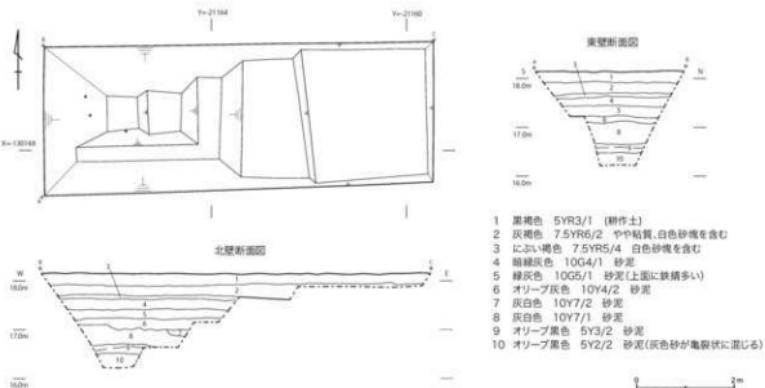


第42図 稲葉遺跡 R2-12tr 平面・断面図 (S=1/100)

区第5層)はみられなかったが、第10層で噴砂現象と考えられる亀裂がみられた。湧水はなかった。遺物はいずれも小片だが、第2～3層で瓦器・土師器が、第8層で土師器が、第9層で弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・染付が、第10層で瓦質土器が出土した。



第43図 稲葉遺跡 R2-13tr 平面・断面図 (S=1/100)



第44図 稲葉遺跡 R2-14tr 平面・断面図 (S=1/100)

(3) 出土遺物

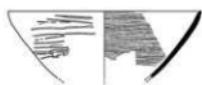
本調査では、コンテナ1箱分の遺物が出土した。すべて小片であったが、以下で図化し得たものを出土調査区ごとに概観する。

第9調査区 (R2-9tr) 1は、瓦器碗である。内・外面にミガキが施される。特に内面は、底部を

除き全面に緻密なミガキが施される。2は、中国製白磁碗IV類である。釉は灰白色で、つやはない。

第10調査区(R2-10tr) 3は、須恵器壺の頸部である。

第12調査区(R2-12tr) 4は、土師器皿である。口縁部に煤が付着しており、灯明皿とみられる。平安時代中期と考えられる。



16



17



18



19

第45図 稲葉遺跡 令和2年度試掘調査出土遺物 (S=1/4)

3. 令和3年度の調査

(1) 調査の経過

令和2年度の調査では、一部で現代の耕作溝が検出されたほか、遺構は確認できなかった。令和2年度は施工予定地全域を対象として調査区を設定したが、令和3年度は、道路及び調整池の建設予定地に絞って6か所の調査区を設定した。調査区の規模はいずれも8m×3mである。

令和4年1月31日に調査区設定及び資機材の搬入等を行い、掘削は2月1日に第1調査区より開始した。調査は、調査区番号順に実施した。

(2) 調査の成果

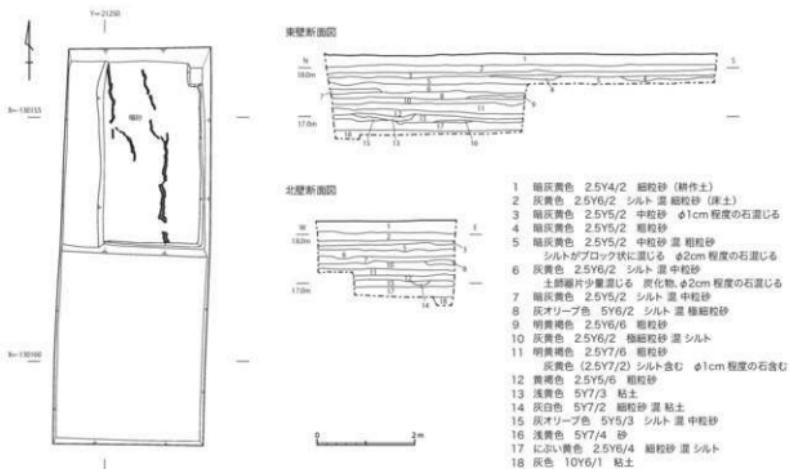
第1調査区(R3-1tr) 調査地の現況は資材置き場である。比較的締まる第6層上面まで重機掘削を行って精査し、遺構が検出されなかたため、北半部をさらに重機で掘削した。GL-1.5mで灰色粘土層(第18層)となり、上面で噴砂を検出した。第18層は湧水があったため、調査区東側に側溝を設けて排水した。遺物は、第6層上面の精査中に土師器細片と瓦質土器片が出土した。壁面では、第6層に少量の土師器細片が観察された。

第2調査区(R3-2tr) 調査地の現況は水田である。全体をGL-0.7mまで重機掘削を行い精査した後、西半部をGL-1.5mまで再度重機で掘り下げた。下層確認のため、北側に幅0.3mの断割を設けGL-1.8mまで人力で掘り下げたが、安定した面は見出せなかつた。湧水はみられなかつた。遺物は、第7層から瓦質土器片が、北側断割内から土師器片及び瓦質土器片が出土した。

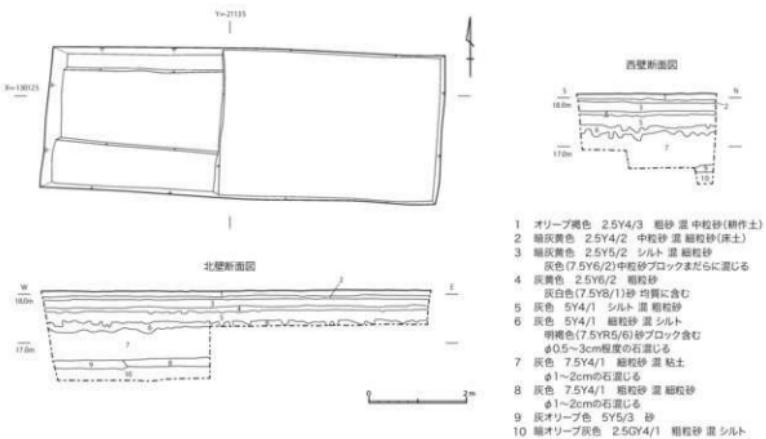
第3調査区(R3-3tr) 調査地はもと耕作地で、現在は草が密生している状況である。GL-0.8mまで重機掘削を行い、精査した。第7層からの湧水が著しく、調査区東側に側溝を設けて排水した。

その後、北東部を重機で掘り下げて下層の確認を行ったが、GL - 1.5m で川砂の堆積を検出し、湧水が激しかったため、掘削を中止した。安定面はなく、遺構の検出もなかった。遺物は、第16層から若干の土器片と瓦器片が出土した。

第4調査区 (R3-4tr) 調査地の現況は畑地である。GL - 0.3m で、地山とみられる礫を含む浅黄

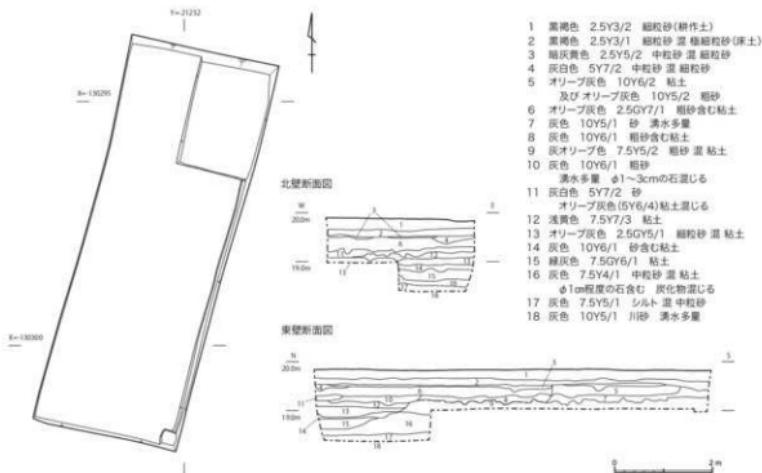


第46図 稲葉遺跡 R3-1tr 平面・断面図 (S=1/100)

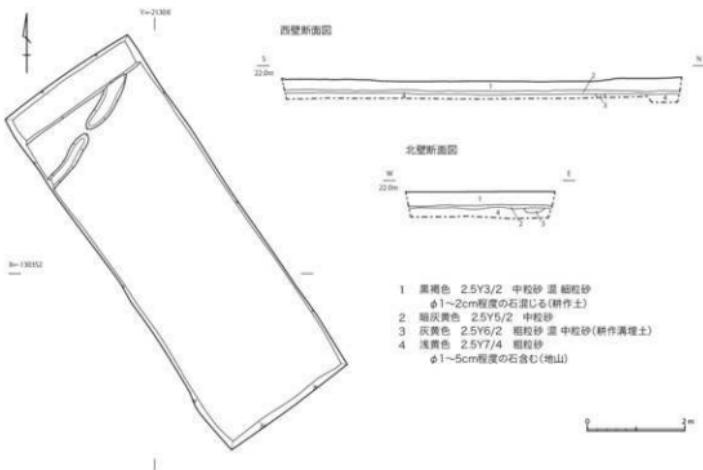


第47図 稲葉遺跡 R3-2tr 平面・断面図 (S=1/100)

色の砂層を検出した（第4層）。上面で浅い耕作溝を2条検出した。おそらく、耕作地とする際に地山を削平しているとみられる。遺物は、第2層上面から近世陶磁器の小片が、第2層中から土師器細片と近世の擂鉢片が出土した。



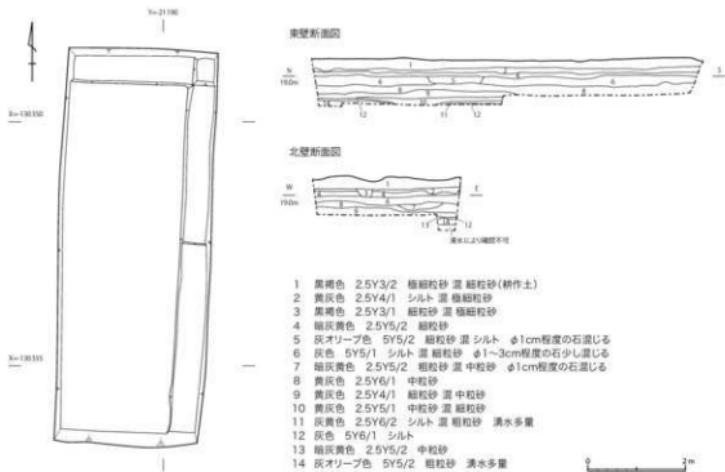
第48図 稲葉遺跡 R3-3tr 平面・断面図 (S=1/100)



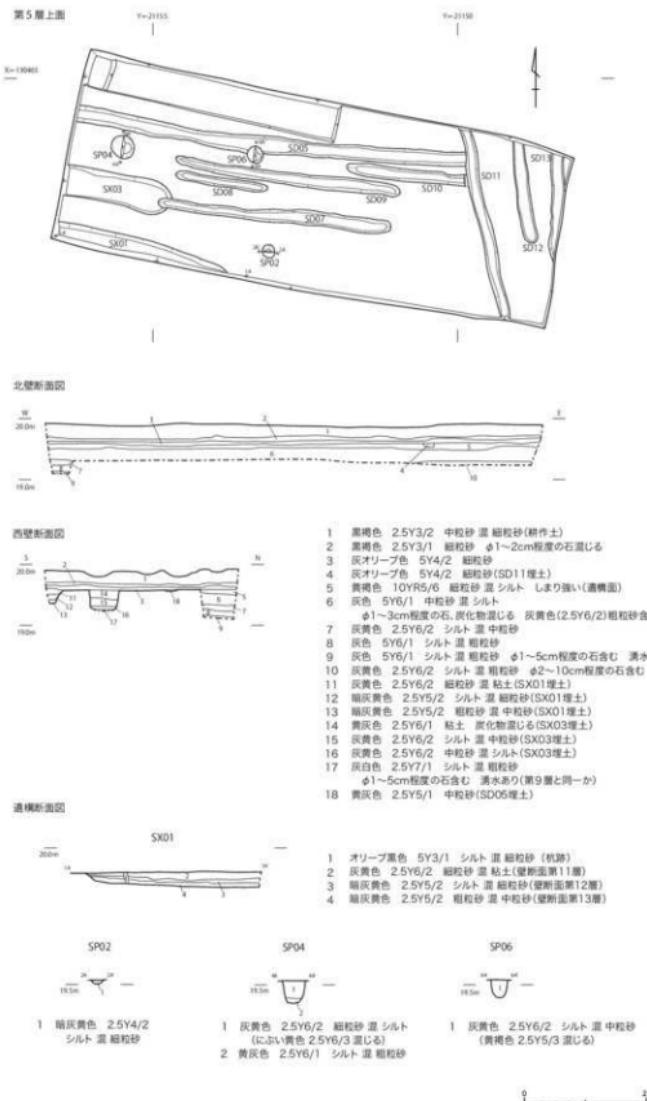
第49図 稲葉遺跡 R3-4tr 平面・断面図 (S=1/100)

第5調査区（R3-5tr） 調査地はもと耕作地で、現在は草が密生している状態である。GL - 0.5mまで重機掘削を行って精査した後、北側と東側に断割を設定し下層の確認を行った。第11層及び第14層で著しい湧水があったため、北東角を GL - 1.1mまで深掘りするにとどめた。安定面はみられず、遺構も検出されなかった。遺物は、第2・4層から瓦片と焼締陶器片が、第6層からは土師器・須恵器・中国製青磁・近世陶器が、東側断割内の第8層から土師皿と須恵器が少量出土した。

第6調査区（R3-6tr） 調査地の現況は畑地である。GL - 0.4 ~ 0.5mでよく縮まる黄褐色シルト層（第5層）を検出し、その上面で複数の遺構を検出した。ピット状の遺構は3基検出したが、いずれも柱痕はみられなかった。耕作溝群は概ね東西方向のもの（5条）と南北方向のもの（3条）とがあるが、南北方向の溝が東西方向の溝を切る。なお、同一方向の溝埋土はいずれも同一の土質である。SD12及びSD13はごく浅い溝で、壁面では埋土を観察することができなかった。性格不明遺構SX01及びSX03は、溝状だが検出範囲が狭く溝と判断できないため、不明遺構としたものである。SX01は深さ0.3m、SX03は深さ0.4mで、粘土またはシルト質土が堆積する。遺構の記録をとった後、ピットは半裁のまま残し、北側に幅0.7mの断割を入れて人力で掘り下げるとともに、東半部については重機で下層確認を行った。最深部でGL - 1m程度まで掘り下げたが、多量に湧水する砂礫層（第9層）にあたり、掘削を中止した。遺物は、第5層上面から須恵器・染付が、北側断割内の第5層内から中国製青磁が、第6層から土師器・瓦質土器が、第9層から須恵器が出土した。また、東側の下層確認時に、第10層から土師器片が数点出土した。遺構に伴うものとしては、SX01から須恵器・土師器が、SP02から須恵器が、SX03から土師器が、SP04から焼締陶器が、SD05・SP06・SD11からそれぞれ土師器細片が出土している。



第50図 稲葉遺跡 R3-5tr 平面・断面図 (S=1/100)



第51図 稲葉遺跡 R3-6tr 平面・断面図 (S=1/80)

(3) 出土遺物

コンテナ1箱分の遺物が出土したが、いずれも小片で
あり、図化し得たものはわずかに1点のみである。

20は、土師器皿である。胎土は密で焼成も良好である。
底部外面にはユビオサエ痕が残る。平安時代中期と考えら
れる。



20

第52図 稲葉遺跡 令和3年度試掘調査
出土遺物 (S=1/4)

4. 総括

稲葉遺跡では、令和2年度と令和3年度の2か年にわたり、合計20調査区で試掘調査を実施した。出土遺物は少なく、すべて小片である。調査対象地北側は概ね湿地堆積であり、一部で地震痕跡は確認されたものの、遺構は検出されなかった。一方で、調査地南側の調査区では、よくしまる黄褐色土が残る調査区が複数確認された。この層の上面に生活面が形成されていた可能性がある。特に、R3-6trでは黄褐色土層上面で複数の遺構が検出されている。遺物が少ないと判断は難しいが、一部は中世のものである可能性も残る。R2-2tr、R2-13tr、R3-4trなど対象地西寄りの調査区でもしまりの強い黄褐色土層が検出されたが、近代以降の耕作地化に伴い削平されており、耕作溝以外の遺構は確認できなかった。また、調査対象地中央付近のR2-5tr、R2-12trでも近現代の耕作溝が確認されたが、以下は湿地堆積であった。

今回及び過去の調査成果より、調査対象地南西側は地形的にも高く、遺構面が検出される可能性があると考えられる。南側の商業施設建設時には方形周溝墓が検出されていることもふまえ、開発にあたっては、対象地南西部を中心に追加の試掘調査を要する。

付表3 稲葉遺跡 出土遺物一覧

報告番号	調査年次	調査区	遺構層位	種類	器種	法量(cm)	調整	胎土	色調	焼成	残存率	反転復元	備考
16	R2	9tr	第9層	瓦器	椀	口径：(16.0) 器高：(6.6) 底径：—	内：ナデ、ミガキ 外：ナデ、ユビオ サエ、ミガキ	密	内：N6/1灰褐色 外：7.5Y5/1灰褐色	良	口縁部 1/12	あり	
17	R2	9tr	第9層	白磁	椀	口径：(16.0) 器高：(2.8) 底径：—	—	密	胎土：5Y7/1灰白色 釉調：10Y8/1灰白色	良	口縁部 1/12	あり	中国製 IV類
18	R2	10tr	第2層	須恵器	壺	口径：— 器高：(3.7) 底径：—	内：回転ナデ 外：回転ナデ	精良	内：N7/0灰白色 外：N7/0灰白色	良	頸部片	あり	
19	R2	12tr	第1層	土師器	皿	口径：(10.0) 器高：(1.1) 底径：(7.6)	内：ナデ 外：ナデ、ユビオ サエ	密	内：2.5Y8/2灰白色 外：2.5Y8/2灰白色	良	1/8	あり	灯明皿
20	R3	5tr	第8層	土師器	皿	口径：(11.0) 器高：(4.0) 底径：(8.2)	内：ナデ 外：ユビオサエ、 ナデ	密	内：10YR8-3浅黄褐色 外：10YR8-3浅黄褐色	良	1/5	あり	

第5章 杉谷遺跡

1. 調査に至る経緯

杉谷遺跡は、京田辺市大住池平に位置する散布地である。

杉谷遺跡にかかる大住小学校グラウンド内において、令和3年度に幼稚園仮設園舎を建設することが決定したため、建設予定地を対象として試掘調査を実施することとなった。調査は、令和3年(2021)3月25日に実施した。

《調査体制》

調査主体 京田辺市

調査責任者 京田辺市長 上村崇

調査指導 京都府教育委員会・京田辺市文化財保護審議会

調査担当者 京田辺市民部文化・スポーツ振興課 吉兼千陽

同 上野あさひ

発掘作業委託 京都遺跡サービス株式会社

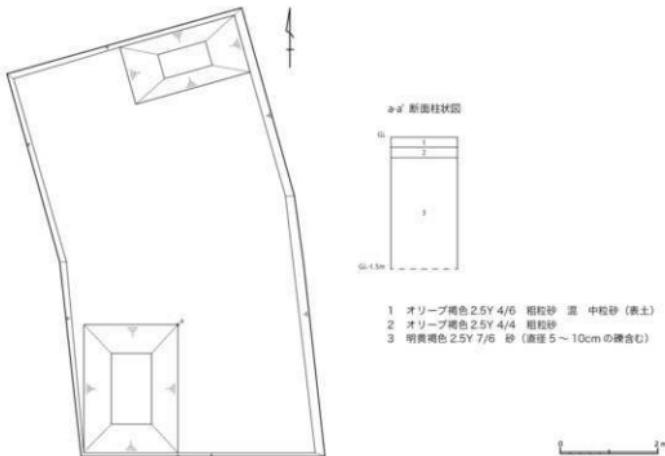


第53図 杉谷遺跡調査区配置図 (S=1/5,000)

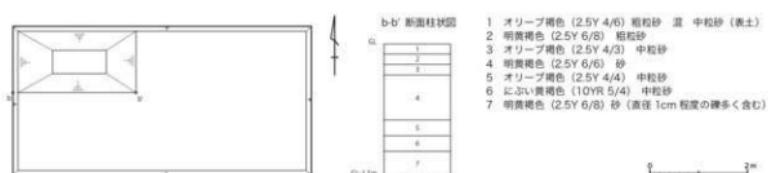
2. 調査の成果

第1調査区 グラウンドのトラックに合わせ、幅5mの調査区を設定した。北東角及び南西角を、GL - 1.5mまで掘削したが、砂層が続き遺構は検出されなかった。遺物も出土していない。

第2調査区 第1調査区の西に設定した、南北3m、東西6mの調査区。第1調査区と同様、北西角をGL - 1.5mまで掘削したが、砂層が続き遺構は検出されなかった。遺物も出土していない。



第54図 杉谷遺跡 第1調査区平面・断面図 (S=1/100)



第55図 杉谷遺跡 第2調査区平面・断面図 (S=1/100)

図 版

図版第1



(1) 門田遺跡 H30-ltr
第4層上面検出状況
(北から)



(2) 門田遺跡 H30-4tr
第4層上面検出状況
(北から)



(3) 門田遺跡 H30-5tr 拡張区
第3層上面全景 (東から)

図版第2



(1) 門田遺跡 H30-6tr
SK05 完掘状況（南東から）

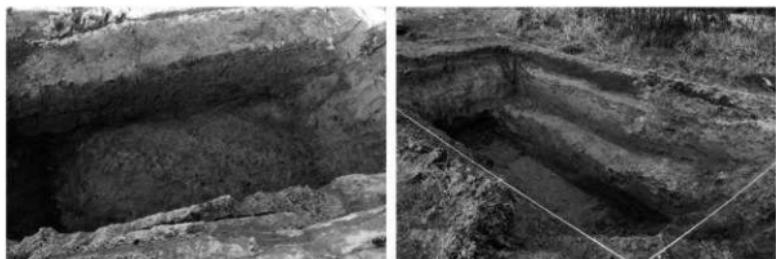


(2) 門田遺跡 H30-7tr
全景（北から）



(3) 門田遺跡 H30-9tr
第5層上面完掘状況
(南から)

図版第3



(1) 門田遺跡 R2-2-2tr SD01 検出状況（南から） (2) 門田遺跡 R2-2-4tr 全景（南東から）



(3) 門田遺跡 平成30年度試掘調査・令和2年度第2次試掘調査 出土遺物

図版第4



(1) 興戸遺跡 第1調査区
全景（北から）



(2) 興戸遺跡 第3調査区
第1面完掘状況（南から）

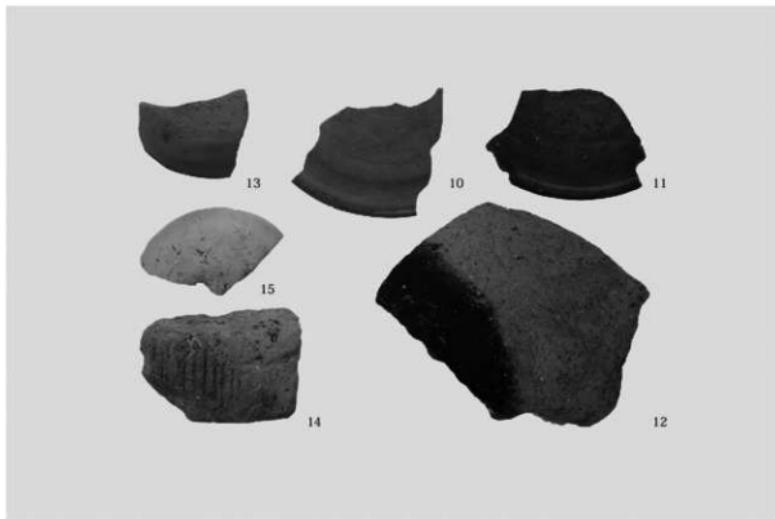


(3) 興戸遺跡 第3調査区
第2面完掘状況（南から）

図版第5



(1) 興戸遺跡 第4調査区
全景（東から）



(2) 興戸遺跡 出土遺物

図版第6



(1) 稲葉遺跡 R2-1tr
全景（西から）



(2) 稲葉遺跡 R2-2tr
全景（西から）



(3) 稲葉遺跡 R2-5tr
耕作溝完掘状況（西から）

図版第7



(1) 稲葉遺跡 R2-6tr
全景（北から）



(2) 稲葉遺跡 R2-7tr
全景（南から）



(3) 稲葉遺跡 R2-8tr
全景（東から）

図版第8



(1) 稲葉遺跡 R2-9tr
全景（東から）



(2) 稲葉遺跡 R2-13tr
耕作溝完掘状況（東から）



(3) 稲葉遺跡 R2-14tr
全景（東から）

図版第9



(1) 稲葉遺跡 R3-1tr
全景（北から）



(2) 稲葉遺跡 R3-4tr
全景（北から）



(3) 稲葉遺跡 R3-5tr
全景（南から）

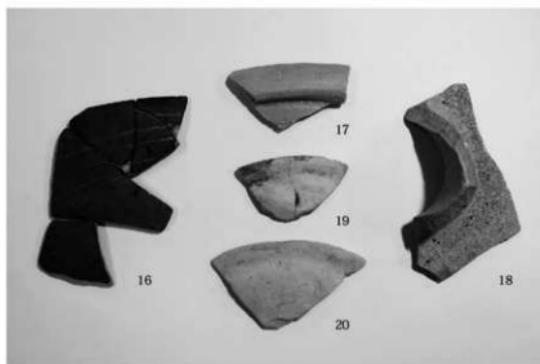
図版第 10



(1) 稲葉遺跡 R3-6tr
第5層上面完掘状況
(西から)



(2) 稲葉遺跡 R3-6tr
全景 (西から)



(3) 稲葉遺跡
令和2年度・令和3年度
試掘調査 出土遺物

報告書抄録

市内遺跡発掘調査報告書

平成30年度～令和3年度の試掘調査

発行 令和5年3月31日

編集 京田辺市 市民部

文化・スポーツ振興課

発行 京田辺市

〒610-0393 京都府京田辺市田辺80

印刷 三星商事印刷株式会社

〒602-8358 京都府京都市上京区七本松通

下長者町下る三番町273